

はじめに

大人の発達障がい診断を受ける人が増加していますが、いまだに社会的な理解や支援が不十分です。障がいに気がつかないまま苦労を重ねて、精神状態の悪化や家族との不和、生活困窮など、生活が破綻してから初めて支援につながることも少なくありません。長期ひきこもりや治りにくい精神疾患の中にも、発達障がいの特性のある人が多いのではないかとされています。障がい分野だけではなく、ひきこもり、若者支援、生活困窮、介護など様々な社会資源との連携が必要です。

板橋区は、発達障がいに特化した家族会が長年活動しており、行政や関係者と共に学び、課題を共有している先進的な地域です。支援のあり方を検討した結果として、障害者手帳も障害福祉サービス受給者証も必要としない、区の独自事業として開設されることになりました。発達障がい疑いの人も対象とする区民相談であることが、医療や福祉につながらないまま困窮している人を支援につなげる役割を果たすことができると考えています。

開設前に板橋区内における当事者のニーズや社会資源の利用状況を把握するために実態調査を行いました。本人・家族調査は、板橋区発達障害児者家族会の協力により、主にご家族から、困難の多い現状について具体的な声を寄せていただきました。支援機関調査においては、区内の様々な施設で発達障がいのある方（疑いを含む）794人を受け入れている実態がわかりました。利用の重複はあると思いますが、発達障がいの診断を受けてサービスを利用する方が、想定以上に多いことが明らかとなりました。

大人の発達障がい者支援は始まったばかりで、いまだ支援経験の集積がありません。そのような中で、日々、本人と向き合いながら悩む支援者の声を聞き取ることができ、支援者を支え学ぶ機会を提供する役割が明確になりました。

調査結果については、運営委員やスーパーバイザーと分析検討し、事業内容や今後の方針に反映させました。

アンケート調査へのご協力に心より感謝いたします。今後も忌憚のないご意見をお寄せいただき当事者、区民と共につくるセンターにしたいと思えます。

職員4人での出発となりますが、準備段階からたくさんの応援をいただき、開設を迎えることができました。今後はさらに応援団を増やし、発達障がいに関する正しい理解が広まり、区内に支援の輪ができるように、職員一同力をつくします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

板橋区発達障がい者支援センター センター長 小山 伸子

大人の発達障がいに関する実態調査報告書

目次

はじめに

1 刊行にあたって	……3
2 板橋区の障がいに関する基本情報	……7
3 板橋区の発達障がい者支援に関するあゆみ	……11
4 板橋区発達障がい者支援センターについて	……15
5 実態調査の結果と考察【本人・家族編】	……19
6 実態調査の結果と考察【支援機関編】	……33
7 事業開始から建物開設までの取り組み	……47
8 調査結果の反映(支援方針)	……51
9 関係者コメント	……55
資料集・館内写真	……65

Ⅰ 刊行にあたって

板橋区長あいさつ

成人期の発達障がいに関する相談の増加や支援のニーズが高まる中、平成 28 年に発達障害者支援法が改正され、乳幼児から成人期までの切れ目のない支援など、より一層の取組が求められるようになりました。

板橋区内には、乳幼児から概ね 15 歳までの児童を対象とした専門相談窓口はございますが、16 歳以上の方を対象とした専門相談窓口の設置が求められていました。

そのため、板橋区では、発達障がいのある方が暮らしやすい地域社会を実現するため、発達障がいのある方の自立や社会参加に向け、総合的な支援を行う拠点として「板橋区発達障がい者支援センター（あいポート）」を開設することとなりました。

本センターでは、専門職員が、発達障がいのある方とその家族から、日常生活に関する相談に応じるほか、社会参加に向けた訓練やご家族の交流などを通じた家族支援、発達障がいに関する普及啓発に取り組むほか、利用者が安定した生活が送れるよう、必要に応じて、教育・福祉・医療機関などの関係機関と連携を図り、自立と就労に向けて取り組むとともに、安心して利用できる居場所づくりを進めてまいります。

また、区の関係部署におきましても、組織横断的な連携を強化し、発達障がいのある方へのライフステージに合わせた、切れ目のない支援を行ってまいります。

最後に、「板橋区発達障がい者支援センター（あいポート）」開設にあたり、多くの皆様にご尽力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

今後も、発達障がいの理念や支援の輪が広がるよう努めてまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

板橋区長 坂本 健

法人代表あいさつ

「生きづらさ」とは、世間とか普通とかいう訳のわからないものによる、こうあるべきという強制、するべきでないという抑制、LGBTQ や国籍、障がいなどのマイノリティーに対する差別などによって、自分の「ありのまま」とのずれが大きい生き方をしている時に感じるものだとは私は解釈しています。

それでも時代は進歩しています。もうすでに世間など気にしなくて良い時代に入ったと思っていますし、普通という概念もそのうちなくなるでしょう。各々が余計なことを気にせず「ありのまま」で生きられる時代は必ず来ると思います。

でも、今はまだ不十分です。「生きづらさ」を感じている人がたくさんいます。

発達障がいは他の障がいと比較すると、非常にわかりにくいものです。例えば左の膝から下が欠損していることの不自由はなんとなく想像がつくのだけれど、発達障がいと言われても、見た目からは何もわからないし、どういう状態で、どんな不自由があるのか想像もつかない。だから周囲からの理解とサポートを得られにくいのでしょう。

発達障がいについて当事者や支援者はもちろんのこと、できるだけ多くの人に理解してもらうことが状況改善への第一歩だと思っています。板橋区発達障がい者支援センターはそのための活動と必要なサポートを行うことが役割です。

発達障がいと言われる人たちの特性は、物事を多様な方向に発展させるきっかけとなり、今までの人類の発展に重要な役割を果たしてきたのではないかと思います。人類の発展にとって必要だから一定の割合で存在している。今の社会は急激にややこしくなってバランスを崩しているから、うまくその役割が活かせていない場合があるだけだと思っています。みんなが輝ける未来が必ずあると私は信じています。

私は板橋区発達障がい者支援センターおよび、ココロネ板橋の運営法人代表として、みんなが「ありのまま」で生きられるように、皆様方のご意見を聴きながら臨機応変に様々な取り組みを実行し続けることをお約束いたします。

設立にあたりご尽力いただきました、板橋区役所の皆様、IJ の会の皆様、連絡会に関わっていただいた皆様、当事者やご家族の皆様、御近隣の皆様、そしてスタッフ、全ての関係者の皆様に心から感謝致します。これからもご指導いただけますようよろしくお願いいたします。

平成医療福祉グループ
代表代行 武久敬洋
(社会福祉法人 関西中央福祉会)

あいポートプログラム紹介①



3D デザイン自主勉強会



パソコンで Rhinoceros (ライノセラス) というソフトを使って、3D デザインを学びませんか？

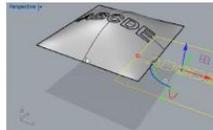
スキルを身につけて就労に活かしたり、新しい余暇活動として学んだり、目的は自由です。

講義はありませんので、テキストを見て、一人で集中して取り組むことができます。

※専門家をお呼びしての講義の機会は、別途開催予定です。

Rhinoceros (ライノセラス) とは？

3次元モデリングツールです。建築、車、シューズなど、さまざまな業界のデザインツールとして使用されています。美術大学のデザイン学科などでも使用されています。



●3D 自主勉強会

【日時】 毎週水曜日と第2、4土曜日 14時～16時

【場所】 個別支援室

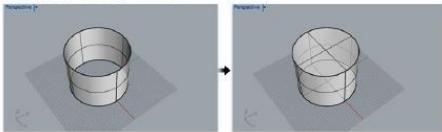
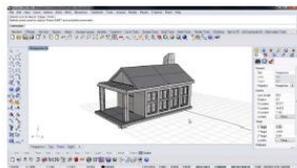
【定員】 4名

【対象】 社会参加訓練の登録者

【参加の流れ】

・事前に申込書に記入してください。

・当日、個別支援室にお越しください。



あいポート社会参加訓練事業

お気軽に
ご参加ください！

『土曜クラブ』はじめます！

【日時】 12月19日(土) 14:00～16:00 (受付開始13:30)

【対象】 社会参加訓練の登録者(見学・体験は登録不要)

【内容】 ～第1回は「茶話会」です～

参加者同士で今後やってみたいプログラムなどアイデア・ご意見を出し合いながら、これからの予定を決めていきたいと思えます。

自己紹介や近況報告など情報交換の時間もあります。

センター内の見学・事業説明会の時間も予定しています。お気軽にご参加ください。

【申込み】 事前に担当スタッフまでお申込みください(当日飛び入り参加も可)

【当日の流れ(予定)】

14:00 センタースタッフの挨拶、センターの事業説明と見学、参加者自己紹介

14:50 休憩

15:00 今後やってみたいこと、センターでやってほしいこと、今ハマっていること(おすすめなど)

15:50 感想、お知らせ

16:00 終了

※プログラムの利用について

・見学や体験参加もできます。

・継続的な利用には社会参加訓練事業の登録が必要
です。詳しくは担当スタッフにご相談下さい。

※感染症対策について

・事前の検温及びマスク着用のご来場をお願いします。

・37.5℃以上の発熱や咳症状及び倦怠感のある場合はご遠慮ください。

・受付時に、検温及びアルコール消毒のご協力を願います。

土曜クラブとは
平日はどこかへ通っていたり、就労していたりする方などが集まる場として毎月色々な内容のプログラムを企画したいと思います。
日頃困っていることや知りたいことについての情報交換の場にできればと思います。
皆さんのアイデアを聞きながら毎回内容・テーマを変えて実施する予定です。お好きな回にご参加ください。

2 板橋区の障がいに関する基本情報

1 板橋区の人口

	人数
人口	570,512人

※板橋区ホームページより抜粋(2020年11月現在の人口)

2 板橋区障がい福祉計画(第5期)の情報

※第5期板橋区障がい福祉計画より抜粋(全て2017年度の数値)

	人数	前回の障がい福祉計画(4年前)との比較
障がい者	31,387人	知的障がい、精神障がい(発達障がい含む)、身体障がい、難病の方の合計。 ※発達障がい者数の統計はない
知的障がい者	3,856人	475人増(その内、軽度の方は350人) ※ASDやADHDを併せもつ人の統計はない
精神障がい者	4,411人	1,200人増(その内、軽度の方は750人) ※発達障がい者の手帳所持者が含まれている
身体障がい者	17,867人	微増
難病	5,253人	
障がい児	1,250人	内、464人は軽度知的障がい児であり増加傾向にある。
特別支援教室 (小学校)	350人	通級の発達障がい児の人数
特別支援教室 (中学校)	54人	

・知的障がいのない発達障がい者の統計はありません。

・発達障がいの診断で精神保健福祉手帳を取得する方は増えていますが、手帳所持者の診断別統計はないため、人数はわかりません。

・軽度精神障がい者の増加数の中には、発達障がいのある方が含まれていると想定できます。

障がい当事者を中心とした区民アンケートの結果		
障害福祉サービス利用率(知的)	30.4%	福祉サービスを利用していない方の中に、支援の必要な方がいると思われる。
障害福祉サービス利用率(精神)	18.8%	

仕事をしていない人の割合(知的)	51.4%	「収入を伴う仕事はしていない」と答えた人の割合
仕事をしていない人の割合(精神)	69.5%	
障がいに対する地域の理解はあるか？ 「わからない」	41.8%	障がいのない区民にアンケートをし、「わからない」と答えた人の割合

・福祉サービスを利用していない方、就労をしていない方などの中に、必要な支援につながっていない対象者がいると思われます。

・障がいに対する地域理解を広げるための普及啓発が必要です。

区に臨む施策について(精神障がいのある方の回答)		
1	障がいのある人の働く場の確保と就労の定着	43.0%
2	早期発見と適切な対応	40.9%
3	相談体制の充実	37.6%

・発達障がいのある方についても同様のニーズがあると考えられます。

あいポートプログラム紹介②

からだらくらく 身体楽々パーソナルトレーニング

身体の不調を抱えながら生活していませんか？姿勢のチェックや、習慣になっている動作の見直しを行うと、身体の不快感の解消につながることがあります。

バランスボールを使ったり、ポッチャなどのゲームスポーツを楽しみながら、理学療法士が一人一人に合わせた姿勢運動プログラムを提案します。

【講師】佐藤 PT(理学療法士)

【日時】第2、4土曜

10時～、11時～、12時～(1人1時間程度)

【回数】月1回で計3回程度

【場所】多目的スペース

【定員】1回につき1人ずつ

【対象】社会参加訓練の登録者

【参加の流れ】

相談担当の職員に参加したい旨伝えて、申し込みをしてください。



当日、交流室等でお待ちください。時間になったら職員がお声掛けします。



多目的室でプログラムを行います。



パソコン教室プログラム

Word や Excel など、Microsoft office の使い方について、講師の先生をお呼びして学びます。
参加の仕方は2種類あります。

- ◆ 講義を聞きながら進める
- ◆ 自分の勉強したいところをマイベースで自習しながら、疑問が出たら講師に質問する
イチから学びたい方も、これからスキルをレベルアップさせたい方も、皆さんにおすすめです。

MOS 試験対策講座も行います!

【日時】第2・4木曜日／第3土曜日 10:00～11:30

【対象】・センターで相談をご利用されている方(利用には社会参加訓練事業の登録が必要です)
・ココロワークスをご利用されている方

【講師】鈴木 博子さん (パソコンスクール キュリオステーション成増店 インストラクター)
パソコンスクールでは、一人ひとりのベースに合わせて指導しています。基礎から MOS
試験対策講座まで幅広く実施。複数の大学でも講師を担当しています。

【定員】6名程度 (事前申込制)

※USB をお持ちの方は持参してください。(センターでも貸出できます。)

※センターでパソコンを用意していますが、パソコン持参の方は申込時にお知らせください。

【場所】ココロワークス 訓練作業室

【1回の流れ】

10:00～ 講義(約1時間) ※講義を受けず自習参加もできます。
11:00～ (休憩を取りたい人は休憩)
練習問題・ドリル/質問タイムなど
11:30 解散(12:00まで自習可)
12:00 終了

3 板橋区の発達障がい者支援に 関するあゆみ

「板橋区発達障がい者支援センター」設立の経緯

～ここから始まる板橋区の大人の発達障害者支援～

板橋区発達障害児者親の会(IJの会)代表 鈴木正子

「板橋区発達障がい者支援センター」の設立は、当事者、行政、区議会議員、福祉関係者が長年望んでいました。その願いが結実してできたセンターです。

当事者団体であるIJの会は、「大人の発達障害を考える会」という「場」を設けて、勉強会を続けてきました。その立場から、センター設立の経緯をお知らせしたいと思います。

1. 勉強会「大人の発達障害を考える会」の発足

IJの会の会員の子どもたちは、同じ発達障害があっても性格や育ち方などによって多様です。同じ子どもでも時期によっても違い、安定しているときと、不安定なときがあります(環境の要因など、理由も多様)。また、会員の子どもが思春期、成人期に達するにつれて、問題も増えてきます。比較的順調に育っていても新しい環境などで大きな負荷がかかった場合、メンタル面での不調を抱える場合も見られます。しかし、大人の発達障害について、特性上の困難や支援の現状など、わかっていることはわずかでした。親たちが一様に心配することは、親亡き後は本人が自分から必要な支援を求めることは困難であるだろうと予想されることでした。

そのようなことから、まずは地域の現状や支援の課題について学んでいくことが大切と考え、区立障がい者福祉センターや心身障害児総合医療療育センター、板橋区手をつなぐ親の会など賛同者と協働し、2011年に「大人の発達障害を考える会」という勉強会を立ち上げ、年に3回実施してきました。障がい者福祉課をはじめとして福祉事務所所長も含め区の担当者、超党派での区議会議員も参加するようになりました。

2. 勉強会から浮かび上がってきたこと

この10年近く続いた勉強会を通して、大人の発達障害者への支援の課題が浮かび上がってきました。

最大の課題は、支援を受けていない、あるいは自覚のないまま大人になって苦勞している人たちが地域に多くいることがわかってきたことです。成人発達障害者のなかには、長期間ひきこもっていて、支援がない状態に長年置かれている場合もあって、残念ながら出会った場所が裁判所だったというケースもありました。このような潜在的なニーズの把握はまったくされておらず、実態は不明です。

IJの会の会員の子どもが青年期・成人期において抱える問題についてのケースでは、具体的に

は、成長しても発達障害の特性は持ち続けるため、周囲の理解が欠けた場合、困難に陥ることです。たとえば、発達障害についての理解がないことからくる就職先での差別の問題、進学や就職で親元を離れて身近な支援がなくなったとたんに直面する諸問題（予告なしの急な変更に対処できないためパニックを起こし、精神科を受診するように言われた人もいました）。さらに発達障害にメンタルヘルスなどを含む複雑で重複する問題がでてきた場合、支援がほとんどなく入院せざるを得なくなったり、退院しても支援がないといったことです。

勉強会では、発達障害当事者の話にも耳を傾けました。就労支援が優先されるこれまでの考え方に対して、それだけではなく、当事者が生きやすい社会が求められているのだという考えがでてきました。

上記のことから、支援の中核をなす成人を対象とした支援センターの必要性の声が高まりました。その役割は無支援の人を支援につなぐこと、また社会の様々な場所で広く発達障害の特性を理解し、必要な調整をすることです。そしてIJの会では機会をとらえて会員の意見を募集し発信しました。そして毎年区に対して要望書を提出してきました。

3. 「発達障がい者支援センター」の設置決定と発足準備

主な経緯は以下の通りです。

2015年 板橋区に「発達障がい者支援センター」の設置決定

2017年 運営事業者が関西中央福祉会（平成医療福祉グループ）に決定

2018年 準備の話し合いのための連絡会発足

2020年 「板橋区発達障がい者支援センター」発足

発達障がい者支援センターの設置が決まりました。しかし、運営委託事業者の決定まで時間がかかりました。その間、勉強会は板橋モデルに向けてより具体的になりました。当事者や多くの支援者を講師として迎えました。東京都発達障害者支援センター（TOSCA）、東京都自閉症協会、調布市、世田谷区、練馬区をはじめ第一線で成人発達障害の支援に取り組んでおられる方々が話されました。

勉強会と並行して、行政、区議、関係者と先駆的な取り組みの実施の様子の見学にも行き、IJの会も加わりました。自治体ごとにもっているリソースが違うので、そのまま取り入れることはできないことを認識しながらも、若者サポートステーションや精神保健福祉の相談窓口との連携の仕組みの構築が鍵となることがわかり、たいへん参考になりました。

センターを適切なものにするためには、板橋区行政、当事者、委託先事業者の協力関係が欠かせません。そのため、定期的な話し合い（連絡会）がもたれ、様々な議題が討議されました。連絡会には、東京都自閉症協会理事長、板橋区子ども発達支援センターの医師、練馬区の障害者地域生

活支援センターの所長の参加もあり、具体的で有意義なものになりました。

【連絡会での主要な案件】

- ・センター長の人材の確保
- ・準備委員会の早期立ち上げ
- ・分野を越えた横断的な取り組み一区のビジョンの検討
- ・区の計画に方針を明記し、区民との共有

特筆すべきは、これらの課題に、区議の方々が超党派で支援されたことです。案件を整理し、区議会で何度も質問されました。こうした積み上げによって問題点が明らかにされ、行政の担当者が変わっても継続性が担保され、行政と区民との間の信頼度が高まりました。

4. 板橋区発達障がい者支援センターの開設と区のビジョン

板橋区では今年1月末に新年度予算案のプレス発表がありました。なかでも発達障害の支援が大いに注目され、主要新聞各紙で取り上げられました。注目の理由は、近年発達障害の大人の支援の必要性が認識されながらも、区レベルでの具体的な支援の取り組みがほとんど見られないからであると思われます。

【新聞記事から】

東京新聞：「発達障害の大人を支援 板橋区」、読売新聞：「板橋区 発達障害支援 秋にセンター設置」、毎日新聞：「16歳以上の発達障害がある人や家族からの相談を受け付け、福祉や医療、就労につなげる支援センターの開設」、朝日新聞：「板橋区は、『発達障がい者支援センター』を目玉とする新年度予算案を発表した」

以上、「板橋区発達障がい者支援センター」設立の経緯を記しました。

板橋区では、「発達障がい者支援センター」が専門性を活かし、地域に密着した事業を行い、区が主体的に取り組む活動が始まります。今後、「センターを中心に関係機関が連携する」という区のビジョンのもと、生きにくさを抱えている当事者の人権が広く守られることを期待しています。とくに、これまで見逃されてきて、支援が届かなかった発達障害によるひきこもりの方たちの対応が進展することを願っています。

【注】

- 1) IJの会：1997年、板橋区(I)で通常学級に在籍し、情緒障害学級(J)に通級する子どもの親たちが立ち上げた発達障害の子どもをもつ親の会。現在100家族余りが会員です。
- 2) IJの会では「発達障害者支援法」に基づき、「発達障害」の用語を使っており、一方、板橋区の文書では「発達障がい」の用語を使っています。

4 板橋区発達障がい者支援センター について

1 基本方針

板橋区民を対象に、16歳以上の発達障がいに関する幅広い相談をお受けし、区内の関係機関と連携して埋もれていたニーズを掘り起こし、支援を受けていない方などを医療や福祉の支援につなげる役割をはたします。また、特性に合わせた支援と安心できる居場所づくりの拠点として、区内に発達障がいに関する理解と支援が広まるように務めます。

2 事業概要

(1) 目的

発達障がいのある人が生きやすい社会をめざして、利用者一人ひとりの特性に合わせた障がいの理解、社会参加の場の提供、環境整備、普及啓発などの支援を行います。(※当センターは板橋区の委託事業です。)

(2) 対象となる方

板橋区内在住でおおむね16歳以上の発達障がいのある方、発達障がいの疑いのある方、そのご家族、関係機関など。

(3) 利用の流れ

- ①電話受付……………ご相談内容・相談ご希望日時などを簡単にお聞きします。
- ②相談日の設定…担当が決まり次第、当センターから初回相談の日時をご連絡します。
- ③初回相談……………来所いただき、ご相談の内容について詳しくお話を伺います。

どのような支援があればよいかを一緒に考えます。ご希望を伺いながら利用方法を決定していきます。

- ④継続支援……………必要な支援を継続していきます。

相談

日常生活や対人関係の困りごと、福祉サービスの利用や精神科の受診、仕事に関することやひきこもり状態について、またプログラム利用などご相談をお受けします。必要に応じて担当の職員が面接や同行、訪問などをおこない継続的に支援いたします。支援機関からの相談も受け、連携します。

社会参加訓練 (登録制)

- ①グループワーク
ひきこもりがちな生活から外出する第一歩、人との交流に慣れるためのプログラムです。10人以内程度の固定したメンバーで活動します。
- ②選択制プログラム
仲間との交流や生活を豊かにするプログラムを提供します。利用するみなさんの意見を取り入れながら企画します。
- ③個別支援室
集団参加に自信のない方が、安心して利用できる場所です。障がいの自己理解、生活リズムの改善、就労準備等の目的を設定し、自分のペースで個別作業をします。

家族支援

月1回程度「家族学習会」をします。テーマを設け、日ごろの悩みや対処している工夫について学びと情報交換の機会を作ります。ご家族からの個別相談も受け付けます。

普及啓発

発達障がいに関する理解が広まるように、情報発信や学びの機会を提供します。
講演会・支援者研修・コンサート
広報誌の発行・ホームページ発信など

(4)施設情報

- ・開所時間：火曜～土曜 10:00～18:00(祝日および12月29日～1月3日を除く)
- ・相談受付電話:03-5964-5422(火曜～土曜 10:00～17:00)
- ・住所：〒170-0036 板橋区向原 3-7-9 ココロネ板橋 1階
- ・ホームページ <https://i-port.cocorone.space/>
- ・アクセスマップ



(5)愛称「あいポート」の由来

「あい」は板橋区のi、そして愛を表します。ポートはフランス語で扉、英語で港を意味します。迷える人が気軽に開けられる扉であり、また長い人生航海で、休憩したりエネルギーの補給、航路を相談できる港でありたいという思いが込められています。

(6)「あいポート」ロゴ

板橋区発達障がい者支援センター

あいポート

(7)法人情報

- ・運営法人 社会福祉法人関西中央福祉会
関西中央福祉会は、平成医療福祉グループ翼下の社会福祉法人です。
平成医療福祉グループは、絶対に見捨てない医療と福祉を理念として東京や大阪をはじめ全国に100以上の病院・施設を運営しています。

あいポートプログラム紹介③

グループワーク

ひきこもりがちな生活から外出する第一歩、人との交流に慣れるためのプログラムです。固定したメンバーが集まって行います。

【内容】 バドミントン、サッカーなどのスポーツ、任天堂スイッチやボードゲーム、コミュニケーション訓練、音楽、外出など、みんなで話し合っ
て決めます。

【日時】 毎週水曜 10:00～11:30(内容によって変更あり)

【場所】 多目的スペース(内容によって変更あり)

【定員】 10名

【利用年限】 3年

【対象】 社会参加訓練の登録者

【申し込み】 見学・体験のあと利用申込書を提出してください。

【当日の流れ】

開始時間までは、交流室でお待ちください。(内容によって変更あり)



ストレッチ呼吸法(太極拳)

最近、運動不足を感じていらっしゃいませんか？

動きがゆったりとしている太極拳は、初心者にも取り組みやすく、とても入門しやすい健康運動です。

また、人と比べない、競わないことが特徴です。

ゆっくりと体を動かすことで、大らかな、ゆとりのある気持ちを持つことができます。

運動が苦手な太極拳初心者のスタッフも参加します！

是非一緒に体を動かしましょう♪



【日時】 金曜日の 13:30～14:30 (月に1～2回程度)

【対象】 センターで相談をご利用されている方(利用には社会参加訓練事業の登録が必要です)、ココロネットワークをご利用の方

【定員】 8名程度

当日参加制です。事前のお申し込みは必要ありません。

【場所】 ココロネットワーク 多目的スペース

調子の良いときにお気軽に参加してください

5 実態調査の結果と考察

【本人・家族編】

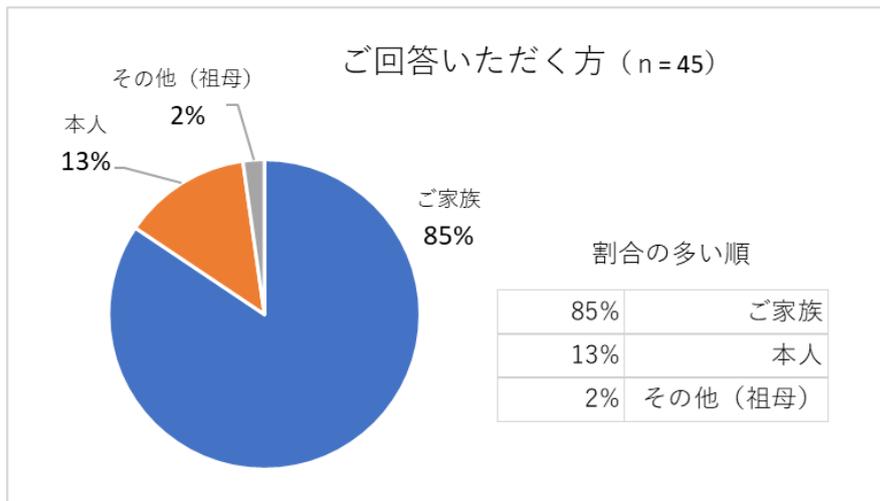
1 調査概要

当センターが対象とする16歳以上の発達障がい(疑いを含む)に関して、板橋区発達障害児者親の会(IJの会)の会員の内、16歳以上の本人及びその家族へ質問票を郵送した。

72名の内、45名から回答を受理した。

2 調査結果

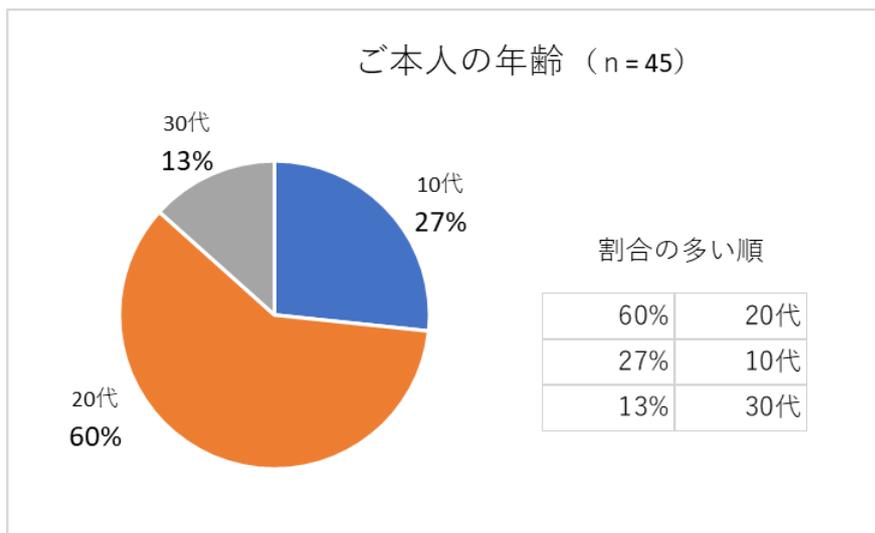
問1 ご回答いただく方



ご家族からの回答が85%と多い。

家族会会員への調査であるため、本人回答は少数。

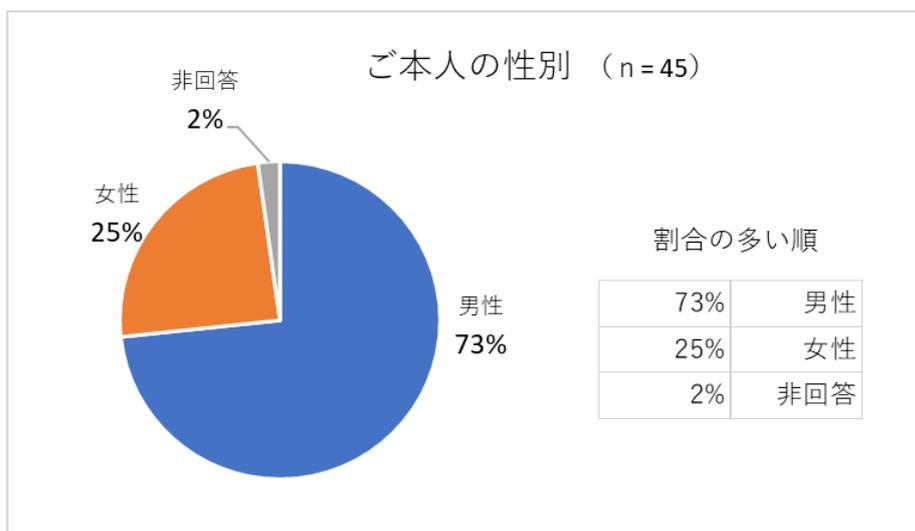
問2 ご本人(発達障がいのある方)の年齢を教えてください。



「20代」が最も多く、次いで「10代」が多い。

設立23年の家族会だが、就職、就学している20代のご本人が多かった。

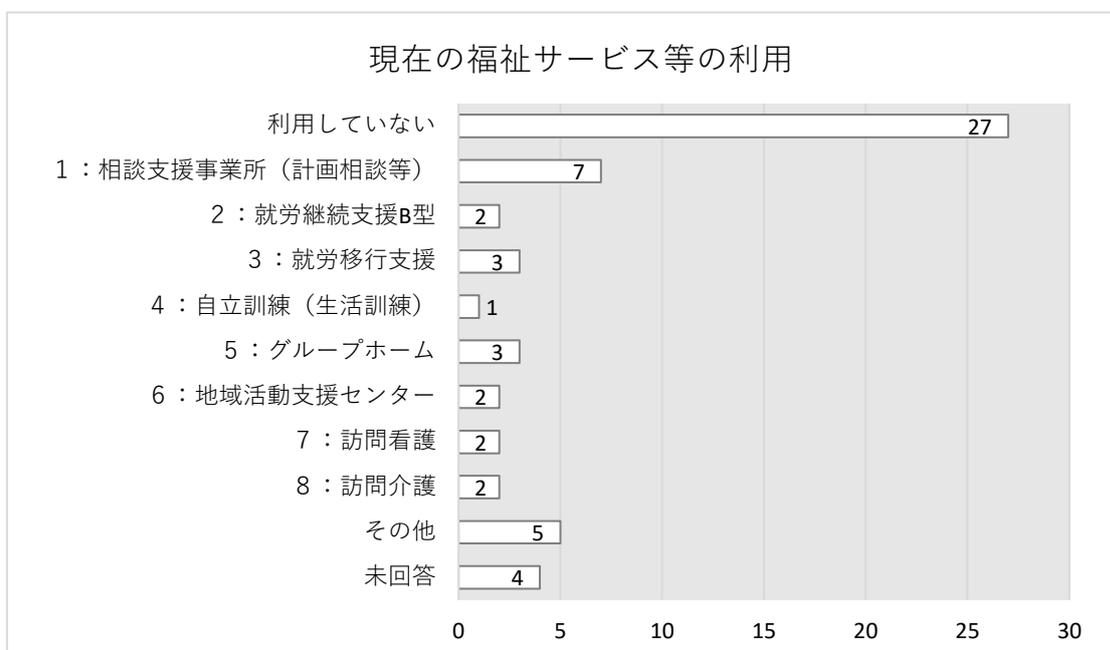
問3 ご本人(発達障がいのある方)の性別を教えてください。



「男性」が73%と多く、「女性」は25%。

問4 現在、福祉サービス等を利用していますか？(複数回答可)

「利用していない」…27件、「1:相談支援事業所(計画相談等)」…7件、「2:就労継続支援B型」…2件、「3:就労移行支援」…3件、「4:自立訓練(生活訓練)」…1件、「5:グループホーム」…3件、「6:地域活動支援センター」…2件、「7:訪問看護」…2件、「8:訪問介護」…2件、「その他」…5件、「未回答」…4件



「利用していない」が最も多い。

子ども時代に受診、診断確定し、親が家族会に加入して情報共有している方々でも、福祉サービスの利用は少なかった。

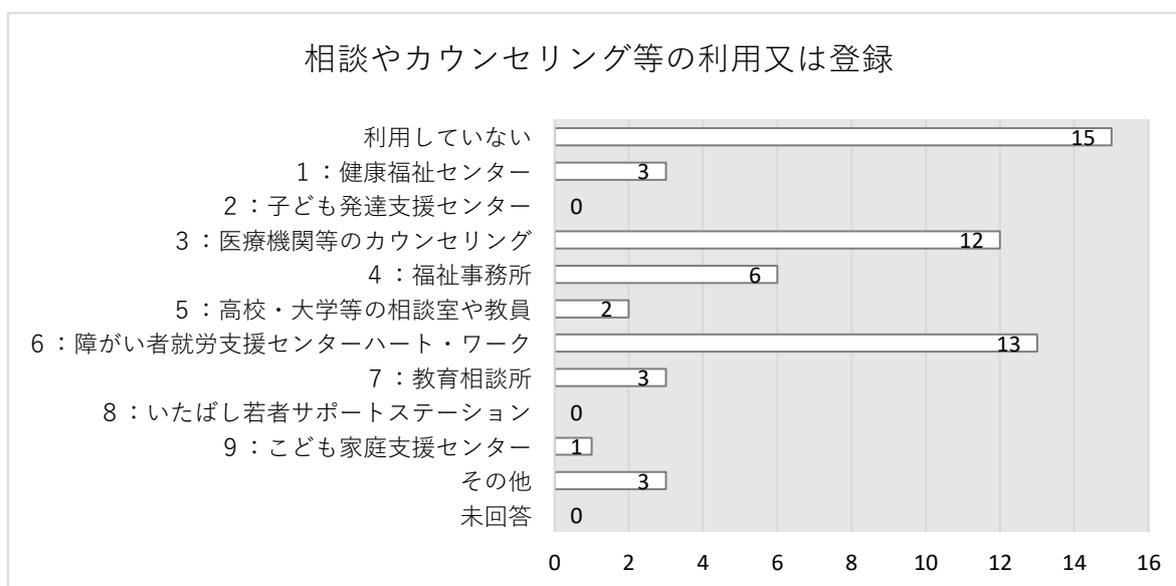
普通教育から就職(障がい者就労)している人が利用できる障がい者サービスは少ないことがわかる。

【その他】

- ・屋内農園型障がい者雇用支援サービス
- ・学校帰りデイサービス週2回利用
- ・障害者施設
- ・就労支援センターハート・ワーク

問5 現在、相談やカウンセリング等を利用又は登録していますか？(複数回答可)

「利用していない」…15件、「1:健康福祉センター」…3件、「2:子ども発達支援センター」…0件、「3:医療機関等のカウンセリング」…12件、「4:福祉事務所」…6件、「5:高校・大学等の相談室や教員」…2件、「6:障がい者就労支援センターハート・ワーク」…13件、「7:教育相談所」…3件、「8:いたばし若者サポートステーション」…0件、「9:こども家庭支援センター」…1件、「その他」…3件、「未回答」…0件



「利用していない」が最も多く、次いで「6:障がい者就労支援センター ハート・ワーク」、その次に「3:医療機関等のカウンセリング」が多い。

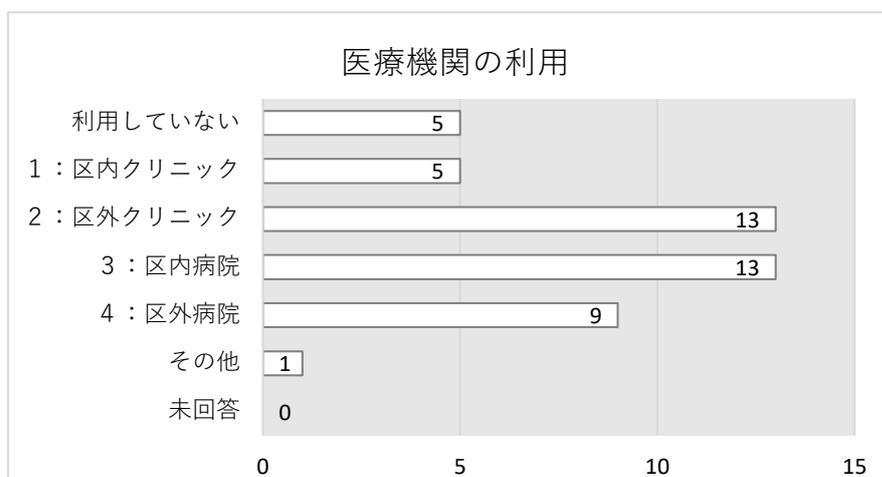
障害者就労している人は就労支援センターが、福祉サービスを利用している人は相談支援事業所が相談先となるが、それ以外の大人の生活全般の相談先がないことがわかる。

【その他】

- ・板橋区教育委員会カウンセリング月2回
- ・心身障害児総合医療療育センター
- ・東京都精神保健福祉センターのアウトリーチチーム(期間限定)。

問6 現在、発達障がいについて医療機関を利用していますか？

「利用していない」…5 件、「1：区内クリニック」…5 件、「2：区外クリニック」…13 件、「3：区内病院」…13 件、「4：区外病院」…9 件、「その他」…1 件、「未回答」…0件



「2：区外クリニック」と「3：区内病院」が多い。

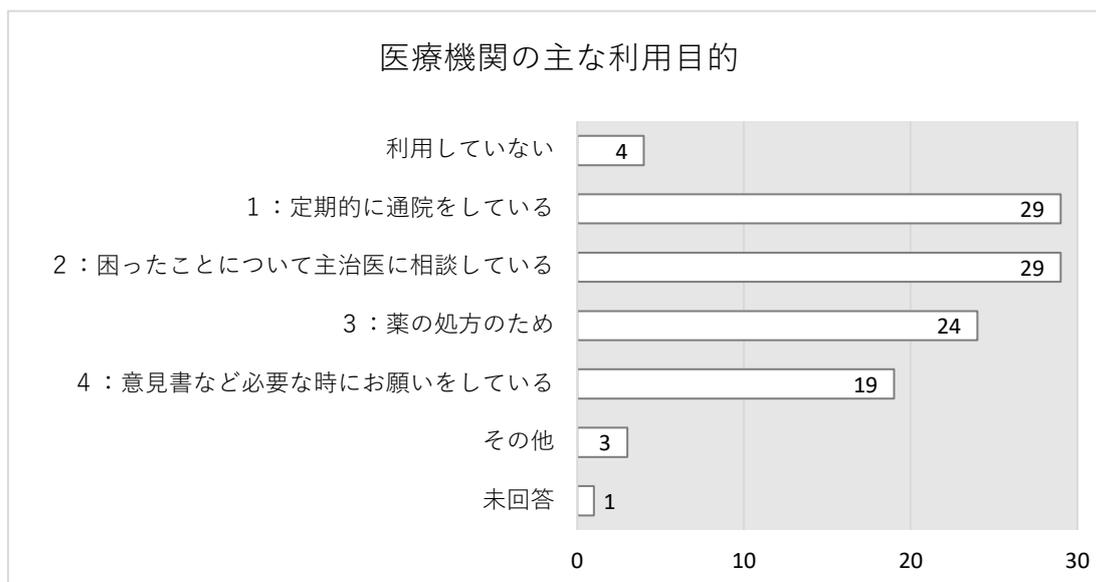
医療の利用率は89%と高く、区外の医療機関が多かった。

【その他】

・平山医院

問7 医療機関の主な利用目的は何ですか。(複数回答可)

「利用していない」…4 件、「1：定期的に通院をしている」…29 件、「2：困ったことについて主治医に相談している」…29 件、「3：薬の処方のため」…24 件、「4：意見書など必要な時にお願いをしている」…19 件、「その他」…3 件、「未回答」…1 件



「1：定期的に通院をしている」「2：困ったことについて主治医に相談している」が多く、次いで「3：

薬の処方のため」が多い。

服薬している方は多く、主治医相談や手帳の更新など、医療を活用していた。

【その他】

- ・1年に1回学校へ診断と意見を出している(学校から提出を求められている)
- ・年金、自立支援医療費申請の為の書類をお願いしている
- ・幼少期は療育
- ・健康診断程度
- ・発達障害に関する相談は今のところ無い

問8 差支えがなければ通院先名称を教えてください。

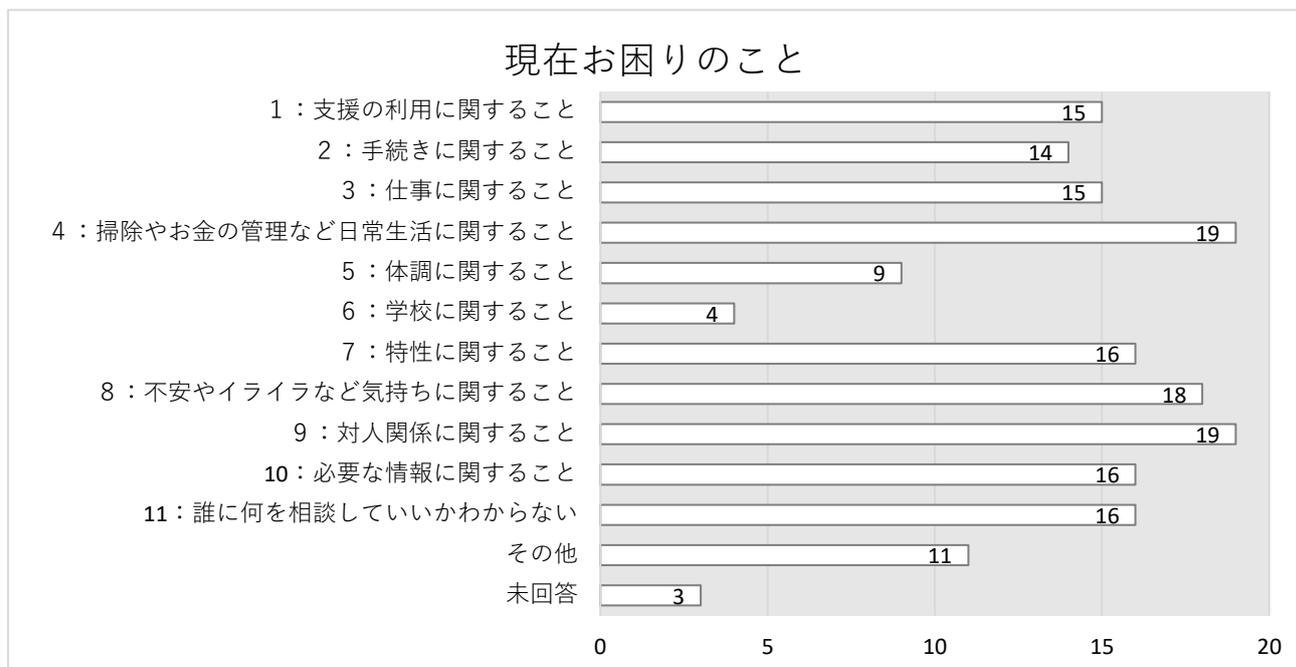
- ・あきメンタルクリニック
- ・ときわ台メンタルクリニック
- ・みこしばクリニック
- ・よこはま発達クリニック
- ・王子クリニック
- ・荻窪小児発達クリニック
- ・慶応大学病院
- ・佐藤メンタルクリニック
- ・子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ
- ・松沢病院
- ・こころのクリニック高島平
- ・心身障害児総合医療療育センター
- ・成仁病院
- ・多摩あおば病院
- ・都立豊島病院
- ・東新宿こころのクリニック
- ・日本大学医学部附属板橋病院
- ・武蔵野病院
- ・平山医院
- ・本郷東大前こころのクリニック
- ・櫻和メンタルクリニック

問 9 問 4~6 以外に利用してよかったと思う支援があればお書きください。

- ・(教育相談室)家政大臨床心理センター
- ・学生向けの就活支援((株)カイエン)
- ・小学生の時不登校になり、その時のスクールカウンセラーの紹介で大学生のメンタルフレンドに来てもらい遊び相手になってもらった。第三者との関わりがもてて、本人も気持ちが楽になり、学校へ行けなかったつらさを少し解消できていたように思う。
- ・天津わかしお学校
- ・心身障害児総合医療療育センター
- ・中央・城北職業能力開発センター板橋校実務作業科
- ・IJの会
- ・Kaienの学プロ
- ・YMCA 東京山手センターグループ 活動はらっぱ／きらきら／キャンプ明治安田こころの健康財団、すこやか育成相談室、東京文理学院高等部
- ・いたばし生活仕事サポートセンター。他はどこへ行っても断られるか、目的・対象の条件が合っていないか、当人が気分がのらずに長く続きません。ここだけは、本人の話を聞いて否定されないことがなく続けました。
- ・ことばの教室(小学校)、通級指導教室(中学校)、大学カウンセリングルーム
- ・ハートワーク 会社と自分の間に入って支援してもらっている事
- ・現状特になし
- ・広場あすなろ
- ・高校時代、学校で設置していたUDLという教室で、SSTのような指導や悩み相談をしてくれたこと。
- ・発達障害の親の会の情報ネットワークは非常にたすかった。
- ・板橋区社会福祉協議会(金銭管理)
- ・武蔵野東教育センター療育プログラム
- ・練馬区すてっぷ。登録しての利用はできなかったが(区外のため)、月に一度くらい「楽しかったことを聞かせてね」と言っていたき、月に一度 20 分ほどのおしゃべりにつきあってくださった。2年間ほど続けていただいた。この時の経験で得たことというか、分かったことだが、「何か困ったことはありますか?」と尋ねられても本人に自覚がなく的外れな返答しかできないということだった。日常生活で困っていることは、いくらでもあるが、親がすべて面倒をみてしまうと本人のためにならないと改めて気づき、手出し口出しをひかえるきっかけとなった。もっともそれ以上にコミュニケーションの障害は成人となっても重く、困難なものであることを身にしみて思うのである。

問 10 現在お困りのことは何ですか。(複数回答可)

「1:支援の利用に関すること」…15、「2:手続きに関すること」…14件、「3:仕事に関すること」…15件、「4:掃除やお金の管理など日常生活に関すること」…19件、「5:体調に関すること」…9件、「6:学校に関すること」…4件、「7:特性に関すること」…16件、「8:不安やイライラなど気持ちに関すること」…18件、「9:対人関係に関すること」…19件、「10:必要な情報に関すること」…16件、「11:誰に何を相談していいかわからない」…16件、「その他」…11件、「未回答」…3件



「4:掃除やお金の管理など日常生活に関すること」「9:対人関係に関すること」が最も多く、次いで「8:不安やイライラなど気持ちに関すること」が多い。

家族が感じている本人の困りごとであるが、支援者が想定する困りごとと合致し、生活、対人、気持ちの困りごとが多かった。

【その他】

- ・就活のこと
- ・支援へ行っても長続きしない
- ・今後自立していくための準備について
- ・大人になり主治医を失うかもしれないこと(子どもから大人への医療のつなぎ・大人の発達障がい専門医療機関の不足)
- ・親の死後や将来への不安
- ・運動をしない
- ・センターが開設される小竹向原では交通の便が悪すぎる

問 10-2 また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。

- ・お金を使いすぎる、失くしものが多い。
- ・将来の仕事についてやりたい事と向いている事があっているのか。
- ・これまで周囲に誤解された経緯が何度もあり、本人は発言に慎重になっている。
- ・職場でちょっとした行き違いがあった時など、ほとんどはストレス発散で済むので、家族がざらりと話を聞いている。
- ・ボーッとしていて、言ってもうわの空で聞いていないことがある。
- ・就活が自分一人ではすすめられない。
- ・新型コロナウイルスの影響に伴い、大学のスクーリングがオンラインになり、メールの掲示板を見落とし、必須の単位試験申し込みの締め切りを逃がしてしまった。
- ・新型コロナウイルスの影響で、掃除は自ら進んでできた。
- ・区から届いた書類の書き方が解らない。
- ・支援に関する情報の集め方が解らない。
- ・現在、家族といっしょに暮らし、日常生活について、起床時間やお金の管理などは、いつも母親がしているが今後、その支援ができなくなった時に、本人は、どこに、どのように相談すればよいのか、わかっていない。
- ・現在、親を拒絶し、家出状態でサポートの仕様がありません。親のできること、心構えを知りたいし、同様の思いをしている方がいらっしゃれば（一人も会ったことがないので）巡り会いたいです。子供の思いを理解したいので。
- ・専門学校に通い就職も決まり（資格をいくつか取得できたため）ホッとしていますが、身だしなみ、服を選ぶ（寒いとか暑いとき）が苦手、社会人として清潔感が大事と思いますが、他人が見るとちょっと不潔。もう一度鏡見て!と言いたくなるような髪。直しているが寝ぐせがついている。蝶々結びがきちんと結べないなど、毎回言うとうるさい!と言われ、本人も傷つくのでアドバイスのようにしていますが、普通の人ならまあ出来るという事ができないので、困っています。
- ・力の加減ができない、ドアの開閉がうるさい、足音が大きいなど...食器を片づけてもガチャガチャするなど（アパートに住んでたらクレームしたくなるほど）。
- ・現在高校生で学校には特性は伝え、スクールカウンセラーとも時々親は相談にのってもらっている。本人は障害についてはわかっていて、それでストレスになることもある。一番は対人関係。今後社会に出た時自分から発達障害があるとは言わずに過ごしていくと思うが、対人や仕事でまわりとうまくやっていけないのではと親としては心配。勉強はできるが、気配り、思いやりの気持ちがな。音に敏感なことなど特性をもっているのが理解してくれる人がいればよいが（自閉症スペクトラムです）。
- ・現在通院している医療機関（発達障害に関する）が小児医療センターなので次の医療機関にうつらなければならない。発達障害をみてくれ、尚且つ年金申請の書類も上手に書いてくれるところを知りたい。
- ・高校卒業後、普通に就職し平日 8~17 時フルタイムで働いています。帰宅後、ストレスから非常に多弁で、また余暇の時間が少ないことから、睡眠を極端に削って趣味の活動に費やしてしまう

ため体調を崩すのではないかと心配です。また、身の回りの事(掃除等)にまで全然手が回らず、将来自立へ向けて気がかりです。声の音量調節もできません。

・今は仕事も、家もあり、特に困ることはないのですが、親の死後が一番心配です。一人になった時にどう支援してもらえるのか。どんな支援があるのか、どんな手続きが必要なのか知りたいです。

・困り事に関してたくさんの窓口があり、本人が混乱してしまうので相談窓口を1つにしたいです。

・自立するための支援を受けて、居場所にもなる所は必要だし、助けになると思っています。当人はどこも暫くすると、相談なくやめていて、その後は話しても行くことはない。こういうことも含めて、相談、頼れる所がほしいです。

・自立に向けての支援をどこにどう相談すればいいのかわかりません。

・自立支援や手帳の申請のために本人が行うとすれば仕事を休むことになる。土・日も柔軟に対応してほしい。向原という場所が、不便すぎて、相談したいと思っても行けそうにない。バス停ができればとは思いますが。本人が、自分の好ましくない行動について相談するのはきわめて難しいこと。

・就労移行支援をうけ、就職したものの、パートで3~4時間/日しか働けず、障がい年金も受給できず、親亡き後の生活が心配。本人が何に困っているのかもよくわからない事が多い。(本人は困っていない様子)

・就労移行支援事業所利用中だが、遅刻、早退が多く、就労に結び付くと思えない。

・親亡きあとの継続的な支援をどのように組み立てていけばよいのかわからない。

・人前で鼻くそをほじる。昔、学生時代(その時は、発達障害と分からず普通学級に通っていた為)にいじめられた人、やさしかった人に会いに行きたがる。

・就労支援の相談場所で必要な相談ができない。

・退職後の仕事探して自分の適職がわからない。

・大学卒業後の就職・就労。

・中学までは、医療機関、通級などの支援につながっていたが、現在は本人が嫌がり、どこにもつながっていない。

・易怒性が強く、長じるにしたがって、コミュニケーション障害が強くなり、社会とのあつれきが強まっている。聴覚過敏・摂食障害もあり、愛着障害もあり、一日中ストレスがかかっている。

・発達障がいプラス二次的障害を抱えている子のフォローまでできる支援者に出会いたい。

・発達障害(ボーダーっぽい)のことを隠していたほうがいいのか悩んでいる。学校などでも隠せるならば隠したほうが良いと自分では思ってしまいます。ですがそれによって、バレて悪口を言われたり、直接ではなく、影で頭がおかしい奴だと人から言われているのではないかと不安になります。

・発達障害の傾向があると言われてきたが(小児科医、臨床心理士)精神科にはつながらないまま現在にいたっている。本人には、苦手な所はある、工夫しようとして話されている体調不良もあり、今後の進路や生活についての不安はあるのに(親)、本人は困っていないので、相談する場所がない。

・偏食なので好きな物ばかり食べてしまう。小さな時はプールに通わせたり運動教室にも行ってたが、大きくなり言う事をきかなくなった。一緒に歩いたりしてたが、子供の体力差ができて、一緒に歩いても運動にならないと言われる。定期的に運動ができない。

・現在は親のサポート、親を通じてのプロ、セミプロの皆さんからのサポートに包まれて息子は「何

の問題もない子」のように見られていますが、そこがかえって心配。

・余暇活動（ひとりて出来ることが少ない。交友関係が作れない。遅れてきた反抗期で、親を避けるので悩んでいる。）。親亡き後の生活、将来の不安。グループホームを探しているが見つからない。

・話をゆっくり聞いてくれる人（仕事以外で）、心の持ち方を案内してくれる人、人生永いスパンで（同じ人が）コーチングしてくれる人がいればと思う。

・仕事の継続に対する支援

・親への過度の依存への対処。

・親なき後の自立、経済的サポート。

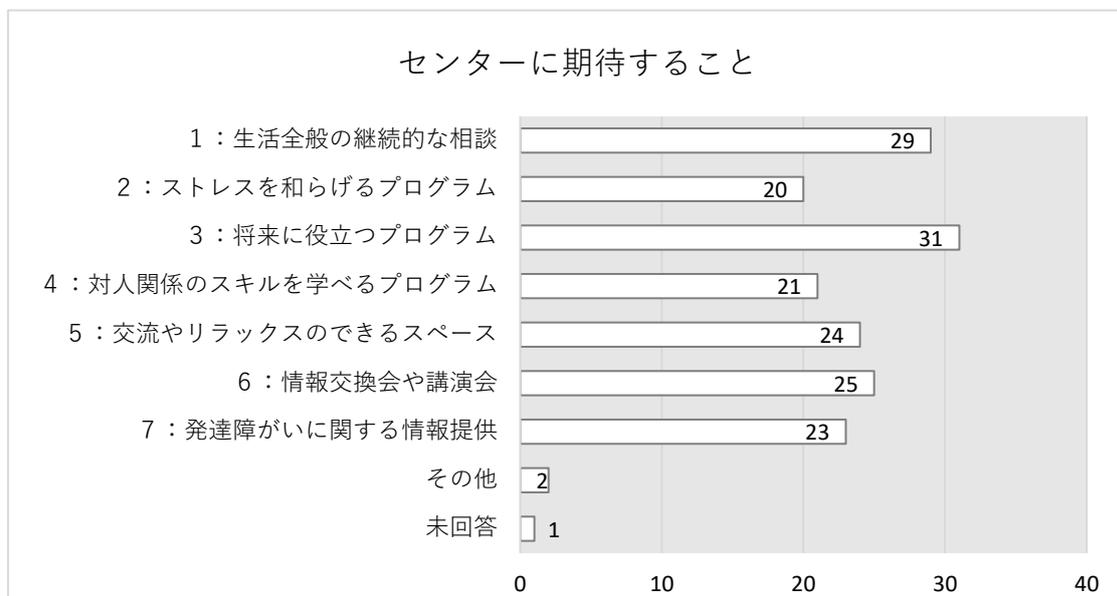
・利用できる福祉サービスがあるか、わからない。

・具体的な将来像がみえていない。身近な先輩などの生活の様子を知る機会がない。いつか一人暮らしをしたいという気持ちを持っているが自らは家のことをしたり行動は全くともなわない。就職して貯金は始めているが、何のために貯金しないといけないのか、将来どういったことにお金が必要かイメージがつかない様子。

・兄弟との関係は幼少期より悪く、他にそういった家庭の経験談などを聞いてみたい。将来どのように関わらせるべきなのかが分からない。

問11 発達障がい者支援センターに期待することは何ですか。（複数回答可）

「1:生活全般の継続的な相談」…29件、「2:ストレスを和らげるプログラム」…20件、「3:将来に役立つプログラム」…31件、「4:対人関係のスキルを学べるプログラム」…21件、「5:交流やリラックスのできるスペース」…24件、「6:情報交換会や講演会」…25件、「7:発達障がいに関する情報提供」…23件、「その他」…2件、「未回答」…1件



「3:将来に役立つプログラム」が最も多く、次いで「1:生活全般の継続的な相談」が多い。

家族からの回答が多いため、親亡き後を心配して、「将来に役立つプログラム」への期待が多かった。

福祉サービスを利用していない人が多く、相談先がないことから、生活全般の継続的な相談希望が多かった。

【その他】

・発達障害の周知

問 11-2 また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。

- ・困った時に電話でも相談ができるとありがたい。
- ・就労支援機関との関係に困っている。
- ・現在は自宅で家族と同居しているが、将来のことを考えるとグループホーム等を検討すべきだと思っている。本人の特性に合った施設があれば情報を提供していただきたいと思う。
- ・今はまだ親がフォローできるが、親亡きあとの生活全般のフォローと支援。
- ・支援していただけるなら、朝、時間どおりに起きられるように、具体的には起こしてほしいということ。現在は家族が行っているが、いずれできなくなるから。もうひとつは、かたづけがまるでできない、ゴミ出しもしない、このことが心配。仕事など興味のあることはかなりできるので、「できない」とは思われていないことが困っている。
- ・小、中学までは通級に通って、病院も行っていました。手帳をとるほどでもなく、薬も、のまなくなり、どこもつながりがなくなってしまったので、本人や親が相談できるセンターができた事は大変うれしく思っている。本人に告知していないので（発達障がい、アスペルガー）もし、これから本人が悩んだり困ったときに相談するとき発達障がい者支援センターという名称がわかりやすくていいと思うが、告知していないので、どうしたらいいかなとか、何かちがう名称もあるといいと思う。
- ・子供が同年代の親のつながりはありますが、これから子供が大きくなった時にどうかと不安なので親の会や、情報交換会、講演会をしてほしい。
- ・社会人になってどんな事が困ったり悩んだりしているのか、アンケート式でもよいので当事者の声をききたいです。（特に手帳もなく普通に会社で働いている、アルバイト等しているなど）
- ・職安（ハロワ）との連携。
- ・親の死後、一人では生きてゆけない。諸手続きや、片付けや掃除、物の管理、公共料金の支払い等、どこに委託したらいいのかわからない。グループホーム等の練習をすればと言われるけど、本人が面接に行くのを嫌がるので登録すらできない。自分が死んだ後の事を考えると死ぬに死ねない。
- ・相談と支援のためのプログラムを本人が希望している。しかし自宅からも職場からも、向原はアクセスがしにくい。回数は少なくとも、東武東上線と都営三田線が交わる板橋区役所付近で実施していただけるとありがたい。
- ・親亡き後、手帳申請や必要な手続、失職したときの対応トラブルに出合った時の対処の仕方などの相談。自らその時に「行こう!」とは、ならないので、日ごろから出入りし、何らかの変化も見取って、さりげなく対応してくだされる環境であって欲しい。
- ・専門的な知識や情報、アドバイスがほしいです。他人とのまじわりを多く欲しない息子と親が心を開いて相談できる場所がほしいです。発達障がい者支援センターの開設を大変ありがたく思っている。

- ・全てにチェックを入れた。現在の私どもとしては、1～5 は本人に対し、6～7 は親に対して期待している。そして、親亡きあとは、本人が日常的にそこを居場所とし、本人からの言語による発信がなくても切れてしまわない場所であることを期待する。
- ・私も共同作業員としてできることがあれば全力を注ぎたいと思っている。
- ・長く支援、子どもの理解をしてくれる人に出会いたい。
- ・発達障がいを理解し、支援して下さることに大変期待している。上記のことすべてできるとうれしいですが、特に 1:生活全般の継続的な相談と 5:交流やリラックスのできるスペースをお願いしたい。グループホーム探しを助けていただけると本当にありがたい。
- ・発達障がい者本人の交流会(年齢別、男女、趣味別)。就労相談。板橋区にも大人の発達障がい者が支援を受けられる場所ができ大変心強いです。
- ・発達障害に関しては今現在でも、まだ誤解があり、勝手な解決により、本人が傷つくこともある。一つのことができると「他のことも簡単にできるだろう」と思われ、プレッシャーになったりすることを含め、今まで以上に情報を出し、講演会など行ってほしい。特に小学校教諭に対して誤解しないよう啓発をお願いしたい。
- ・幼少時より、二次障害が出ないように先手先手で学校や支援先を選び、幸い本人の希望していた分野の仕事に就くことができました。就職して1年、周囲からちょっと変わっている、仕事内容の覚えが悪い等々思われたこともあるようです。親も支援方法など勉強し、的はずれなアドバイスはしていないつもりですが、親よりも第三者(医師やカウンセラー等)からのアドバイスを真面目に聞くタイプなので、定期的に相談・悩みにのっていただける場所が欲しいというのが現在の最大の希望です。(クリニックでは投薬しかしてくれません)
- ・「ここに行けば、相談にのってくれる。困ったらここに来る」という様な発達障がい者の当事者や家族にとって、ポータルサイト+駆け込み寺の様な存在になってほしい。初めての場所や人がにがてな発達障がいを持つ人が、まずここに行けば安心と思える窓口が必要と常々思っていました。その様な”場”になることを期待します。
- ・IJの会会員・行政・関係機関と共に手を取り合い力を合わせて、板橋区ならではのセンターとなります様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

あいポートプログラム紹介④

SST

(ソーシャルスキルズトレーニング)

あいポートの選択制プログラムとして、SST をおこないます。

SST は、一人一人に合わせたコミュニケーションの練習をグループでおこなうプログラムです

下記にあるような練習してみたい場面をつくって、行動の予行練習をすることで、自分のやり方にちょっと自信を持てるような機会になればと思います。

- 例) ・行きたくない誘いを断る ・ちょっとした雑談をする
・職場の人に質問をする ・頼みごとをする

・講師 清水 有香さん

(精神保健福祉士・公認心理師)

色々な場所で SST
をやっている方です。

・日時 12月26日(土) 14時～16時(開場 13時30分)

・場所 多目的スペース

・定員 8名程度 ※事前にスタッフまでお申し込みください。

・参加のしかた

参加者同士で練習したい場面をつくり、工夫するとよい点など意見を出し合います。

見本を見た上で、実際にロールプレイをし、よかった点を確認します。

見学だけの参加も OK です。



2020 年度

板橋区発達障がい者支援センター

あいポート 第3回家族学習会

家族会のとりくみと親の役割

ご家族同士の情報交換と学びの機会をつくるため、あいポートでは定期的に家族学習会を実施しています。

今回は、板橋区発達障害者親の会(IJの会)の代表・鈴木さんをお招きします。家族同士がつながることの大切さ、家族だからできる本人への関わり、あいポートや支援機関の上手な活用の仕方などについて、家族の立場からお話しいただきます。ご家族同士の情報交換の時間も設けます。皆様からのお申し込みをお待ちしております。

■日時: 2月20日(土) 14:00 ~16:00(13:30 受付開始)

■会場: あいポート(板橋区向原 3-7-9 ココロネ板橋1階)

■対象: 当センターの相談を利用している方のご家族

■講師: 板橋区発達障害者親の会(IJの会) 代表 鈴木 正子さん

■当日の流れ

・前半 鈴木さんの講義

・後半 情報交換会

■申込み: 下記までお名前、電話番号をご連絡ください。

電話受付 03-5964-5422

板橋区発達障がい者支援センターあいポート(受付時間 火曜～土曜 10:00～17:00)



6 実態調査の結果と考察

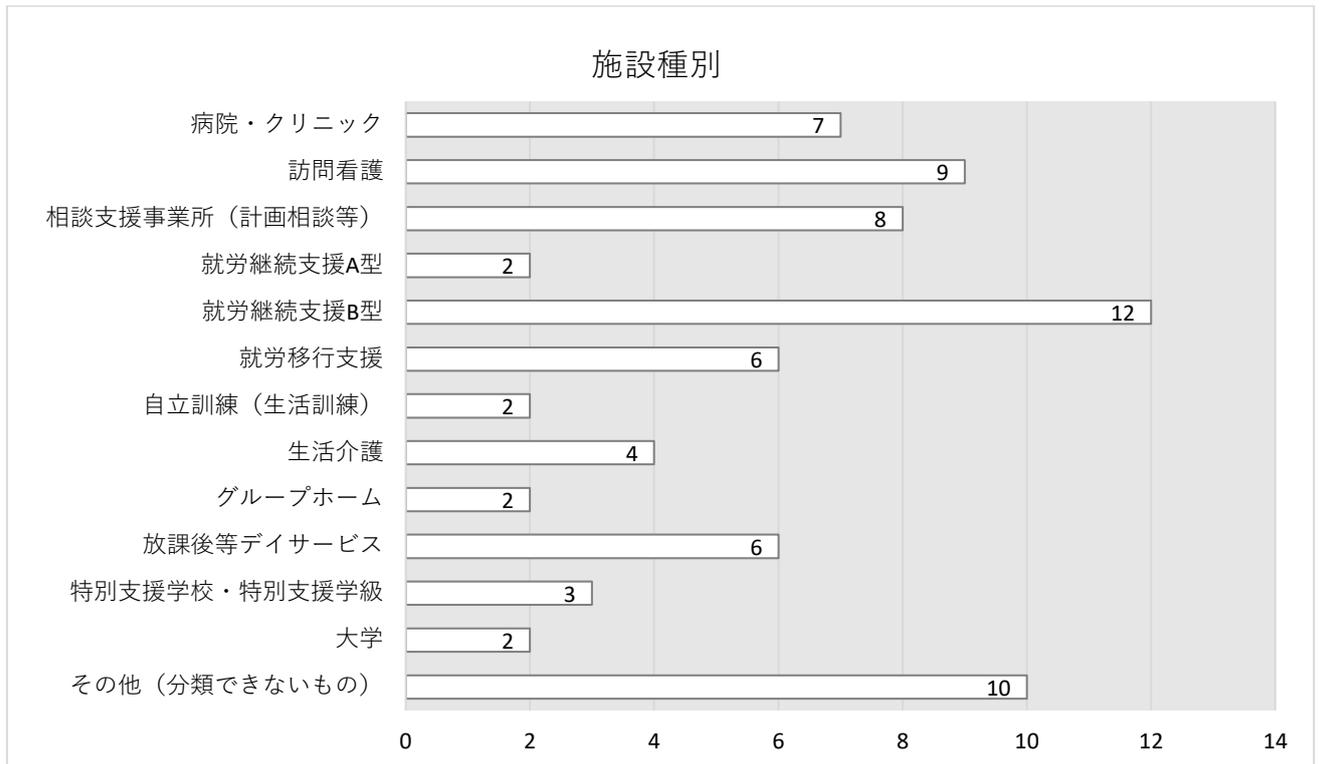
【支援機関編】

1 調査概要

当センターが対象とする16歳以上の発達障がい(疑いを含む)に関して、板橋区内の支援機関に質問票を郵送した。

220カ所のうち68カ所から回答を受取り、回答率は30.9%となった。依頼した支援機関の種類は、下記のとおり。

病院・クリニック、訪問看護事業所、相談支援事業所、就労継続支援事業所(A型・B型)、就労移行支援事業所、生活介護事業所、自立訓練事業所、グループホーム、放課後等デイサービス、特別支援学校・学級、大学、健康福祉センターや福祉事務所など公的な支援機関ほか。



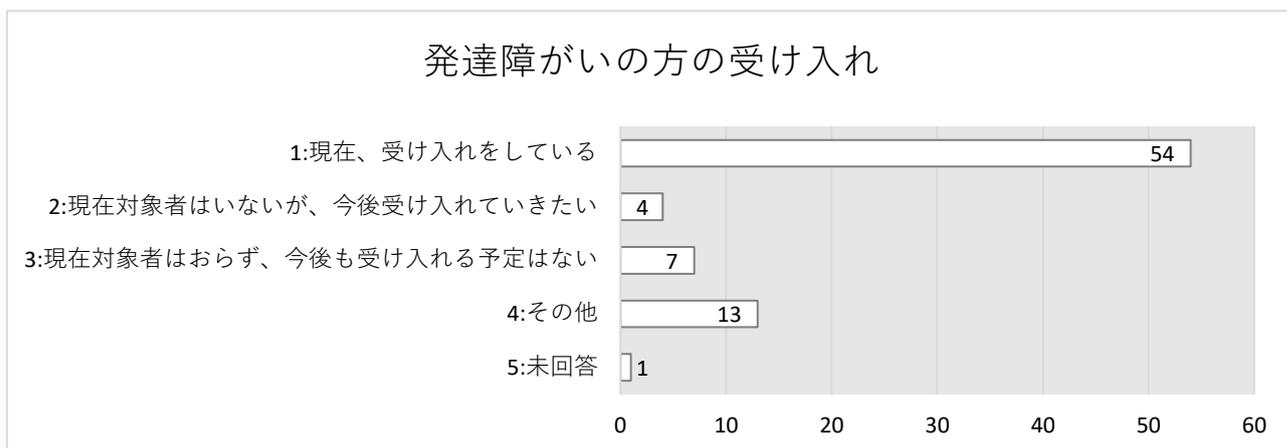
【その他】

- ・保健相談(健康福祉センター)
- ・福祉事務所
- ・障がい者就労支援センター
- ・障害者就業・生活支援センター
- ・自立相談支援機関
- ・子ども発達支援センター
- ・精神障がい者ソーシャルハウス
- ・訪問介護
- ・中学校・高校
- ・サポート校・フリースクール

2 調査結果

問1 貴施設における発達障がいのある方の受け入れ状況を教えてください。

「1:現在受け入れをしている」…54件、「2:現在対象者はいないが、今後受け入れていきたい」…4件、「3:現在対象者はおらず、今後受け入れる予定はない」…7件、「4:その他」…13件、「5:未回答」…1件



「1:現在受け入れをしている」が最も多い。

想定以上に多様な機関で発達障がい者を受け入れていた。

問2 貴施設の利用者数(相談者を含む)

合計 5,976 人

問3 問2の内、発達障がいのある方(診断確定)の人数

合計 614 人

問4 問2の内、発達障がいのある方(疑い)の人数

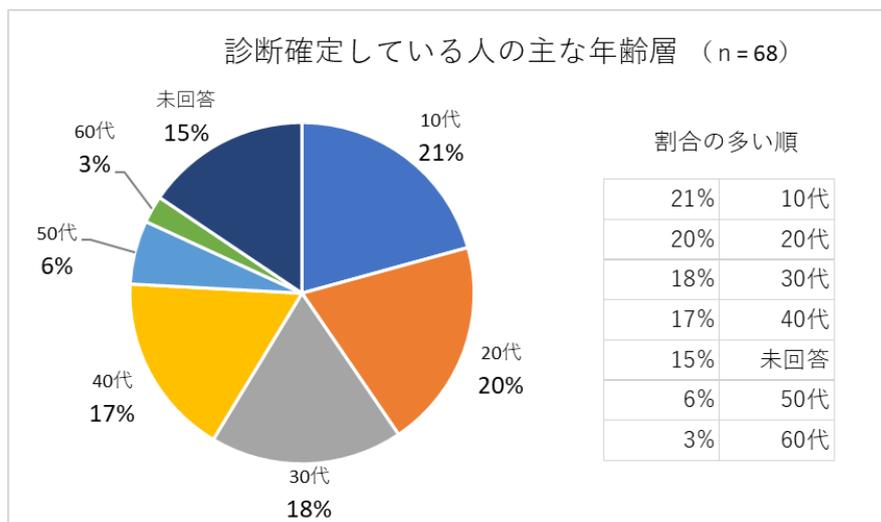
合計 180 人

ご回答いただいた事業所の合計利用者数 5,976 人の内、発達障がいのある方が 614 人、疑いの方が 180 人、合計 794 人だった。区内支援機関と連携する可能性があるセンター相談対象者が、建物開設前時点で 794 人いることになる。合計利用者数に対する相談対象者の割合は 13.3%であった。

利用者の重複が多少あるとはいえ、発達障がいのある利用者数は想定より多かった。就労支援機関からの回答が多いこともあり、診断確定している人が 77.3%と多く、疑いのある人は 22.7%となった。

問 5 (1) 問 3 発達障がいのある方(診断確定)の主な年代層(複数選択)

「10代」…21%、「20代」…20%、「30代」…18%、「40代」…17%、「50代」…6%、「60代」…3%、「未回答」…15%

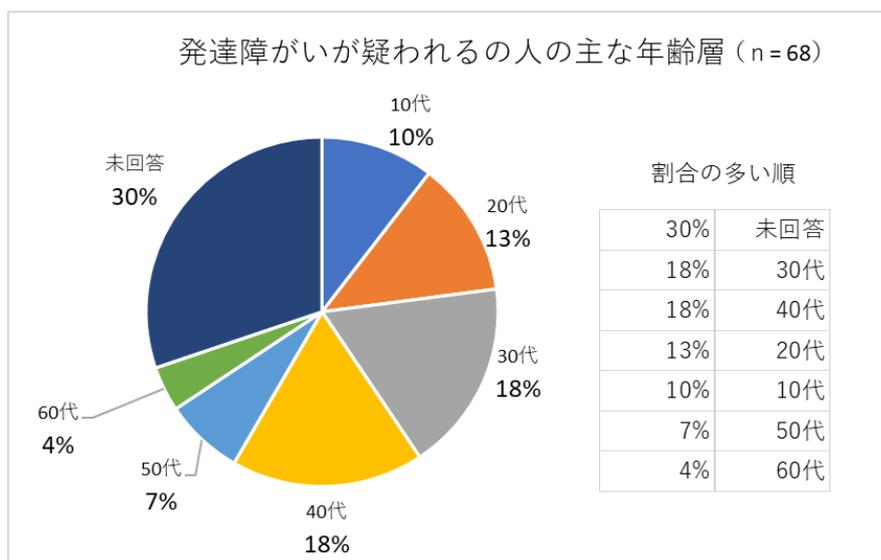


「10代」が最も多く、次いで「20代」、その次に多いのは「30代」「40代」。

子ども時代に診断を受け、サービス利用につながる人が若年層では増えていると思われる。

問 5(2) 問4発達障がいのある方(疑い)の主な年代層(複数選択)

「10代」…10%、「20代」…13%、「30代」…18%、「40代」…18%、「50代」…7%、「60代」…4%、「未回答」…30%

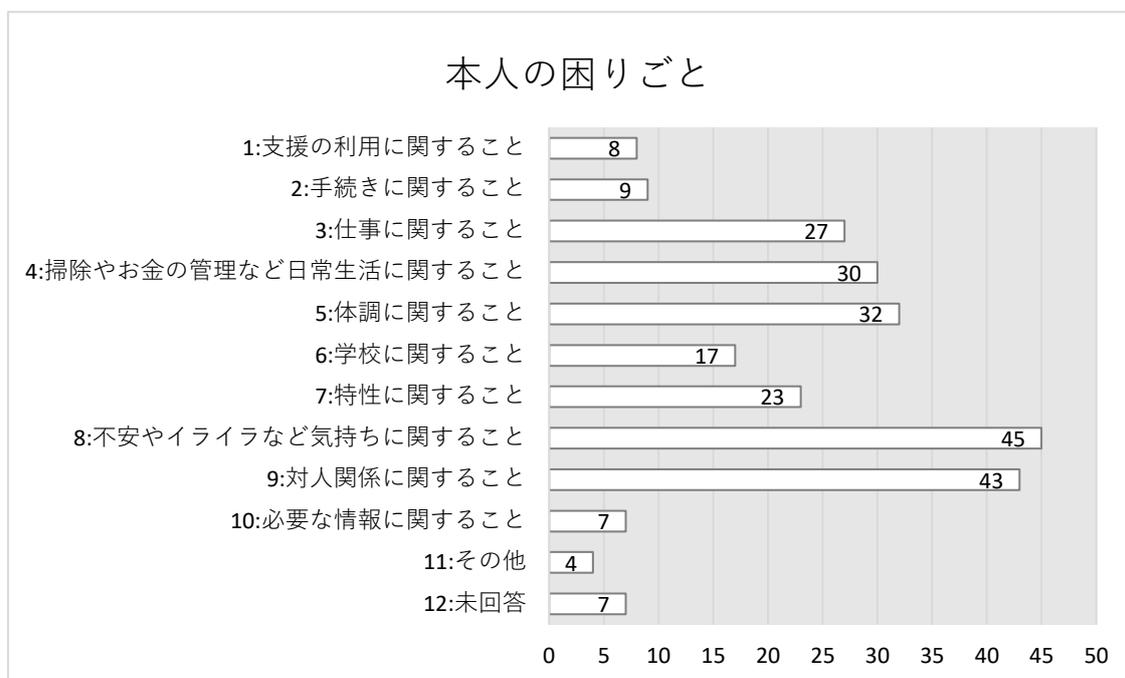


「未回答」が最も多く、次いで「30代」「40代」が多い。

発達障がい疑いの人の年齢層は高めで、子ども時代に診断の機会がなかった時代の人たちと思われる。

問6 利用されている方の困りごと(支援ニーズ)で多い内容は何ですか。(複数回答可)

「1:支援の利用に関すること」…8件、「2:手続きに関すること」…9件、「3:仕事に関すること」…27件、「4:掃除やお金の管理など日常生活に関すること」…30件、「5:体調に関すること」…32件、「6:学校に関すること」…17件、「7:特性に関すること」…23件、「8:不安やイライラなど気持ちに関すること」…45件、「9:対人関係に関すること」…43件、「10:必要な情報に関すること」…7件、「11:その他」…4件、「12:未回答」…7件



「8:不安やイライラなど気持ちに関すること」が最も多く、次いで「9:対人関係に関すること」が多い。支援者が想定する本人の困りごとのため、支援者の感じる本人課題と連動する内容となった。

【11:その他】

・余暇、グループホームなどの生活面の社会資源に関すること

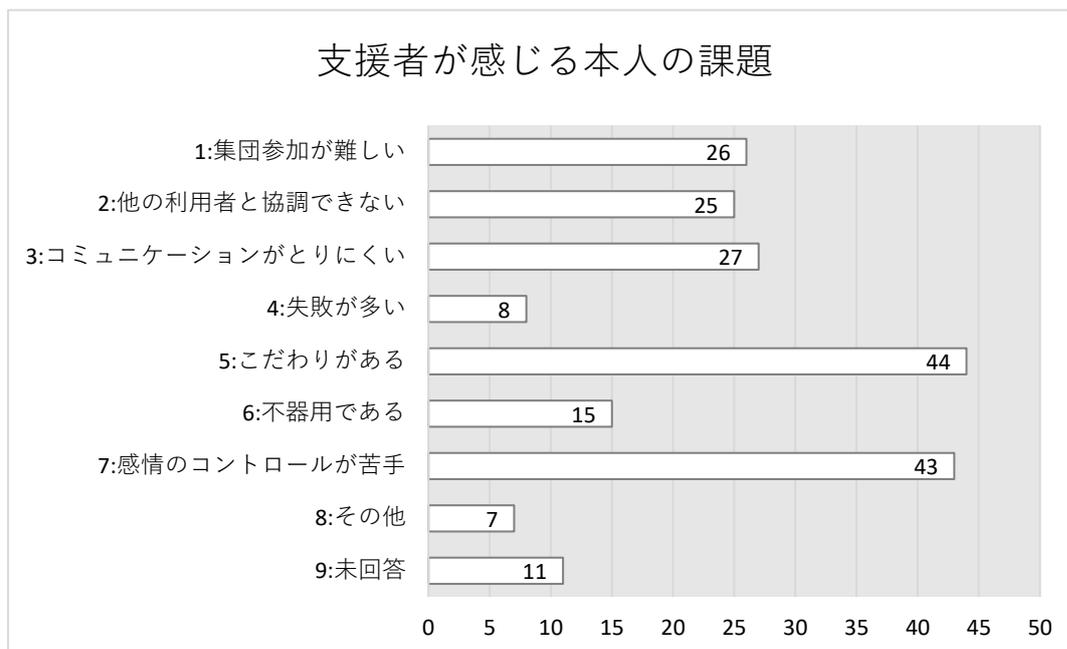
【自由記述】

- ・働きたいが過去の失敗体験との葛藤の相談。
- ・受け入れ施設がないこと。小学校低学年に多い。
- ・音に敏感なため、近隣の住人とトラブルになりやすい。
- ・1週間の行動を決めたとおりにできない。
- ・ADHDとうつもある方の希死念慮。思いつきで行動してしまうので過剰服薬などがある。
- ・夫婦関係の相談(離婚問題、DVなど)。
- ・自分への自信の低下(できていたことができなくなることの喪失感)。
- ・本人が困っていることを自覚されていないケースが多い。

- ・環境や場面変化への不安。判断が両価的である。
- ・若年層が多い為、不安定要素が変化したり、まだ要因の掴めないパニックが出現する時がある。要因を見つける為の分析をしたり、主治医に相談してもらったりするものの、長い目での支援が必要なケースが多い。
- ・小児の場合、親御さんとの関わりが特に大変と感じる。
- ・一人暮らしで体調管理が難しい。
- ・他利用者に対する他害。
- ・就職面接・実習まで行くが失敗が多く挫折してしまう。
- ・周りとの協調が難しく、突然サービスをやめたり、次のことへと見切り発車する。
- ・時間通りのスケジュールをくずされたくない。
- ・社会生活で生じる曖昧な事や上手くいかないことに対し、周囲からの理解が得られない。
- ・本人はあまり困りごととして捉えていないが周囲が困っている。
- ・一つの課題をクリアしただけでは解決にならない。
- ・本人が高齢になれば親も高齢になり、手続きや書類作成など、生活のケアが出来なくなる事。
- ・親御さん本人も時折、傾向が見受けられる時がある。
- ・発達障がいと比較的新しい障がいということもあり、雇用される会社側の職員の理解が追いつかなかったり、十分に指導ができる職員がいなかったり、対応に苦慮することがある。
- ・金銭管理ができず、食費や交通費が支払えないことがある。
- ・SNS を通じてのトラブルがある。

問 7 貴施設スタッフが支援において感じるご本人の課題は何ですか(複数回答可)

「1:集団参加が難しい」…26 件、「2:他の利用者と協調できない」…25 件、「3:コミュニケーションがとりにくい」…27 件、「4:失敗が多い」…8件、「5:こだわりがある」…44 件、「6:不器用である」…15 件、「7:感情のコントロールが苦手」…43 件、「8:その他」…7 件、「9:未回答」…11 件



「5:こだわりがある」が最も多く、次いで「7:感情のコントロールが苦手」が多い。
支援者が想定する本人課題のため、支援の難しさと連動する内容となった。

【8:その他】

- ・自己管理
- ・受容ができていない。
- ・金銭感覚、二次障害（ギャンブル等）
- ・不注意

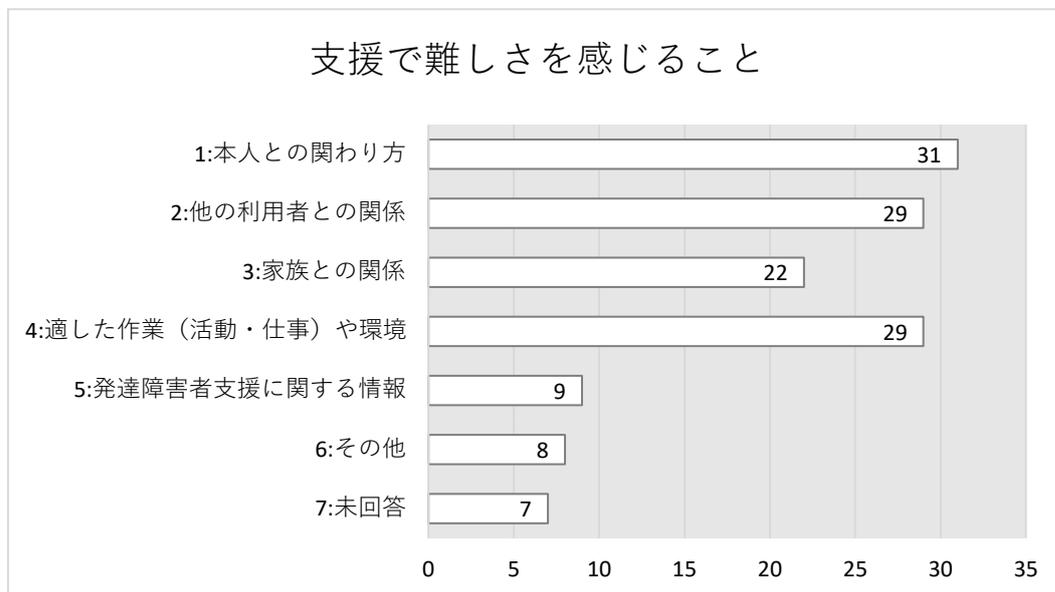
【自由記述】

- ・働く為の最低限のコミュニケーション。
- ・ご本人に適した仕事やその職場環境について。
- ・ご本人の気持ち（状況）をうまく表現できない。
- ・こだわりが、重要な優先順位の妨げとなってしまう。
- ・体調にまで及んで学校にこられなくなること。
- ・新しい環境や場に慣れるのに時間がかかる。
- ・経験の積み重ねがむずかしい。
- ・1つの経験や事柄から拓げて考えたり、見たり、つなげる想像がむずかしい。
- ・作業や行動にかかる時間管理や調整がむずかしい。
- ・優先順位がつけられない。
- ・その場のやり方に慣れず、我流になりがち。
- ・こだわりやルーティンを崩せず助言を受け入れられない。
- ・避難訓練で、集団行動が難しいことがあった。
- ・自己管理が課題の方は多い。清掃、金銭管理、食事の摂り方、服薬の管理、衛生管理など個々の主となる課題には相違はあるが、長期入院して症状が不安定な方は予防的な自己管理に課題がある。
- ・一人一人のかかえていることが全く違い、他の人を参考にできないこと。
- ・障害の受容ができていないと、本人は困っていなかったり、他者や環境のせいと責任転嫁してしまい、変化を見出しづらい。
- ・少しずつでもなんとなく受け入れていける方は対処法（目標）と結びつきやすい。
- ・人間関係でストレスを抱え、それに対して理解して欲しい、認めて欲しいというアプローチが多い。一方的、感情的な事が度々あり、発散するのにある程度聞かないと納得しない。時間枠の設定など取り入れているが、こちらの考えや感想などのキャッチボールは難しい。ただし、一度受け止めることと納得することができ少しずつ本人の活動につながり、役には立っているように感じる。
- ・複数の選択肢があると優先順位がつけにくかったり、感情、特に怒りのコントロールが苦手な人がいる。
- ・「あれ」「それ」「これ」等の表現は伝わりにくい方もおり、表現方法は工夫が必要。
- ・アドバイスを全く受け入れない方もいる。
- ・当事業所は集団でのプログラムが多く、集団への参加が難しい利用者への対応に工夫が必要となる。特に他の利用者のトレーニングのさまたげになる行為（わざと大声を出す、物音をたてる）に対して、どこまで集団内でのトレーニングを続けてもらうか、その判断が難しい。
- ・急に結論を出して建設的な話ができない。

- ・感情の起伏が激しく、時間を置いて話し合う必要がある。
- ・物事を多面的に捉えることが苦手。
- ・被害的になる方が多く、多くの人が攻撃対象になってしまう。
- ・自立に向けての意欲、自分で手続きなどを行う経験がない。
- ・統合失調症などの精神疾患がある。
- ・個々に課題はあるが、作業所では課題というよりも本人の得意な所を見つけ難い所は皆で理解するようにしている。
- ・感情表現が独特であり、周囲に理解されない(本人は怒っているつもりはないが、相手には怒っているように感じられ、本人を怖い人と受け止められてしまう)。
- ・二次障害的な症状や不登校等。
- ・利用施設のスタッフが障害特性への理解がないことがあり、当事者、支援者共に計画相談へご連絡が入ることがある。
- ・障がいの程度が重い(例えば、こだわりが非常に強い、協調性が大きく欠如している等)と、就労自体が難しい(会社側が敬遠する)場合も多く、支援が困難になる場合も多い。
- ・基本的なビジネスマナーの習得。
- ・疲れを感じ取って、自分でペース調整していくこと。
- ・働くこと、働いていくことに対する不安感の軽減。
- ・希死念慮が強い。
- ・活動中でも突然泣き出す。
- ・周りの意見を取り入れることが困難(自分で全てやりたがる)。
- ・同じ相談を繰り返す。

問8 支援で難しさを感じることは何ですか。(複数回答可)

「1:本人との関わり方」…31件、「2:他の利用者との関係」…29件「3:家族との関係」…22件、「4:適した作業(活動・仕事)や環境」…29件、「5:発達障害者支援に関する情報」…9件、「6:その他」…8件、「7:未回答」…7件



「1:本人との関わり方」が最も多く、次いで「2:他の利用者との関係」「4:適した作業(活動・仕事)や環境」が多い。

対人関係と、特性に合わせた環境整備に困難が多かった。

【6:その他】

- ・将来のこと
- ・睡眠への関わり方
- ・グループホームなどの生活の場。※自立のステップとして。
- ・障がいの受容
- ・障害の特性で拘り強く、問題の解決に至らない。
- ・就労先職員
- ・特性にあったプログラム(学習支援)

【自由記述】

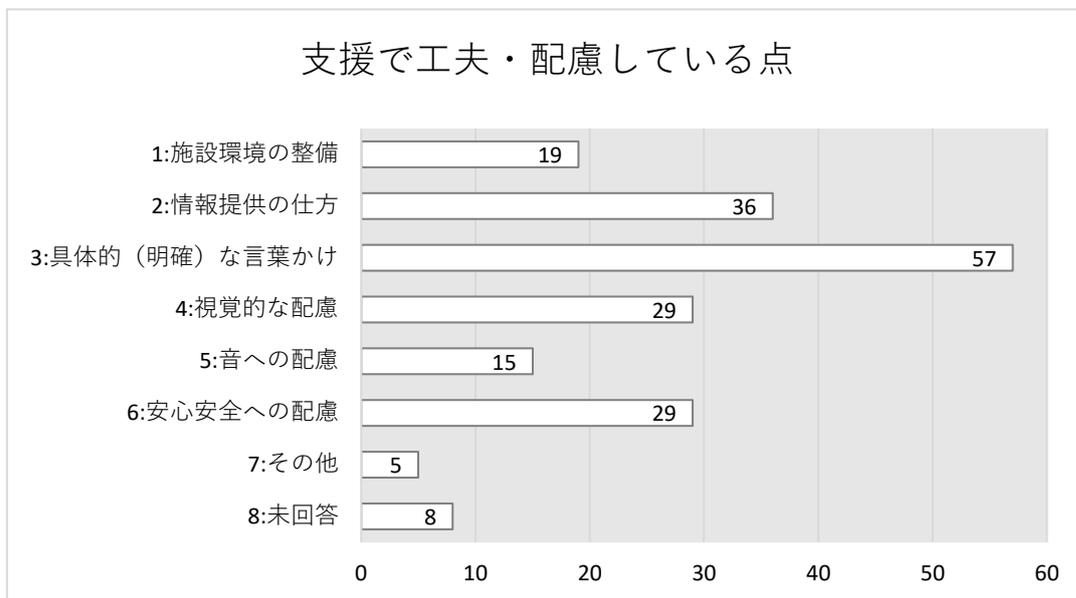
- ・助言の伝え方(最後の言葉しか残らない)。
- ・全体に向けたアナウンスでは聞き逃し、個別のフォローが必要。
- ・障害受容ができていれば全て障害のせいにしがち、受容されていないと性格ややったことがないから・・・としがち。新しい事を学んでいく、変わっていく姿勢がむずかしい。
- ・ご本人とご家族のお考えの乖離。
- ・どこまで支援すればよいか。

- ・20代の就労経験のない、あるいは浅い方への対応(就労イメージが)。
- ・職場でのご本人の特性のご理解とその対応について。
- ・他の生徒とよい関係を築いていくこと。
- ・聴覚過敏の方への適した作業配慮が活動上むずかしい。
- ・皮膚の状態が悪く事業所でぬり薬のお手伝いをさせて頂いている。連休明けの状態が悪く、ご家庭でしっかりみてもらえていない。
- ・寝付けない、眠りが浅い、夜に中途覚醒してしまう、起きれないなど睡眠に課題のある方は多い。
- ・支援者から見ると、それは今の利用者さんの状況では無理なんじゃないかと思うところがあっても、まずはその人の意向をくみとるようにしている。結果自分でやってみて、自分でダメだと納得してもらえているが、反面、失敗を重ねることもなり、とても難しさを感じている。
- ・自分にどのような傾向があるのか客観的に見れる時と全く見れない時があること、どんなモードなのかによっても支援を変えないといけないのが難しい(日によって違うため)。
- ・繰り返しの助言が必要。本人の変化は少しずつ。ある程度一緒に過ごすことで個々人の特性が見えてくる。
- ・支援者や利用者に対し攻撃的になる人もいる。
- ・家族に、障がいへの無理解、もしくは理解出来る機会なかったなど、家族にも問題がある。
- ・個別性を考慮した声かけが難しい。
- ・問6内容がいちばん難しく感じる
- ・難しさというより、本人の思考・行動のパターンがつかめれば理解が進むので、関わり方もスムーズに行く。
- ・両親との距離がとれていない方が多いし、親ごさんもかかえ込んでいる場合が多いので、物理的、精神的(心理的)な独立を支援することが大切。
- ・家族関係が破綻してしまい、援助を受けられない
- ・家庭との連携がなくてはならない場面でなかなか協力や理解を得にくい家族もいる中で、日々のコミュニケーションの大切さを感じる。
- ・本人又は保護者が支援(福祉関係各所からの支援を含む)を受け入れようとしないケース。
- ・発達障がい向けの就労サービス、居住環境があるとよい。
- ・特に外出するわけではなくても、細かく訪問スケジュールを指定されるため、訪問のスケジュール調整が難しい。
- ・進路について保護者、本人に情報提供するが、特別支援に対する抵抗感が強かったり、自己理解が難しかったりして、適した所を選択できず、退学してしまうケースがある。
- ・本人に寄りそう必要がある反面、事実を伝える必要性や支援の範囲に限りがあること。
- ・発達障害と診断され、対応の工夫など提案はできても、家庭や職場でそれが実行できているか把握できない。支援が本人止まりになってしまう。
- ・主訴がはっきりしない。
- ・対人トラブルが起きやすい。
- ・長続きしにくい。
- ・自己理解の難しさ。

- ・特に若い(20代)利用者の方は、ご両親との情報共有を密にとっていくことが重要と思う。
- ・就労先の職員または会社側の受け入れ体制が不十分だと就労後本人が辛くなる場合もあり、ある程度は障がい理解をした上で、発達障がい者の雇用をしていただきたいと感じることが多い。
- ・職員が学習していないことで就労後、本人たちが上手に仕事の切り出しを受けられず、辛い思いをすることもある。
- ・アセスメント不足に起因する特性の理解不足により支援員の対応に難しさを感じる。
- ・ベーシックな部分は他の精神障害も同様と思うので「発達障害だから」というわけではない。

問9 支援で工夫している点・配慮している点は何ですか(複数回答可)

「1:施設環境の整備」…19件、「2:情報提供の仕方」…36件「3:具体的(明確)な言葉かけ」…57件、「4:視覚的な配慮」…29件、「5:音への配慮」…15件、「6:安心安全への配慮」…29件、「7:その他」…5件、「8:未回答」…8件



「3:具体的(明確)な言葉かけ」が最も多い。

多くの事業所が、発達障がいの特性に対する基本的な理解をもとに、工夫し、努力していることがわかった。

【7:その他】

- ・電話対応
- ・初めて取り組むことへの緊張高く、同伴や細やかなサポート。また緊張だけではない拒否感に近い感覚を受けるときがある。
- ・社会資源、ご家族との情報共有
- ・本人のペースに合わせること。
- ・感染症、予防対策

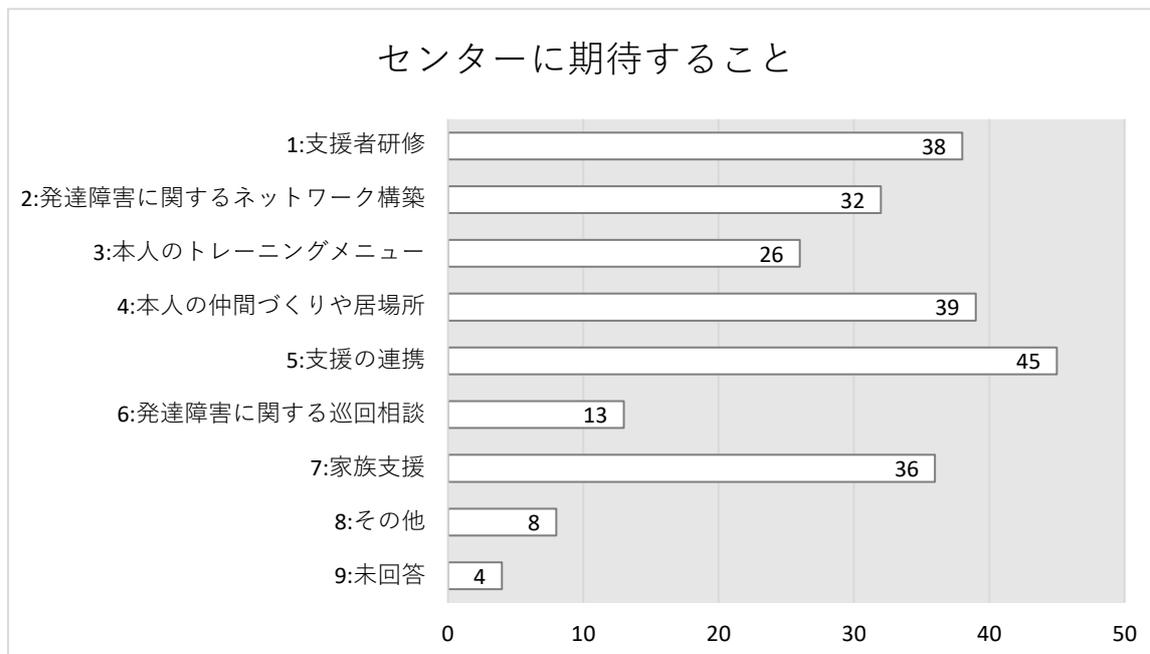
【自由記述】

- ・言葉だけでなく、文章や図を用意して伝えるようにしている。
- ・作業のマニュアル(文章、図、写真)を作成、必要に応じて改良を加えている。
- ・大事な事を決めたり、伝える際は、ご家族や他の支援者にも同席してもらい情報を一致させ、理解や解釈をフォローしてもらえ体制をつくる。
- ・チェックリストを活用し、自己評価とともに客観的評価も伝えている。
- ・プログラム実施にあたり、小グループ制、時間制限、距離間をとるなど実施している。
- ・希死願望がでやすい人に対しては、どれだけ忙しくても電話にできるようにし、必ず受け止めることを継続している。自信をつけてあげたい、自己否定が強いときは受けとめて、私が感じている、その人ができていることを伝えるようにしている。
- ・2、4→相談内容はわかりやすくメモしながら。
- ・集団の中で、分かりやすい環境配慮に注意している。
- ・利用者それぞれによって異なるが、なるべく一般社会のルールを伝えるようにしている。
- ・関係の方々と本人と周囲の方からの情報をてらし合わせる。
- ・発達障害にも様々な特性があり、本人に合った支援を個々に判断し、行っている。
- ・できないことはできないと言う。
- ・傾聴、共感などの接する上でのメンタル面への配慮。
- ・家族が本人の自立を妨げている場合は、徐々に離すように工夫している。
- ・1人1人にあった作業の提供、安心して作業出来る環境作りを気をつけている。
- ・具体的活動(実習など)を支援に多く組み込んで、本人の自己理解につなげている。
- ・上記2については主に就労先へ、3,4,5についても就労先でできる限り配慮していただけるようお伝えしている。
- ・タイムスケジュールの掲示。
- ・ついたての使用。
- ・写真付き作業手順の用意。
- ・口頭指示に加えて、見本を示すなど視覚的にも伝えている。
- ・イヤーマフの使用、作業場所の調整。
- ・個々の方々への個別対応。
- ・心理学やカウンセリングなどを取り入れている。

問 10 発達障がい者支援センターに実施してほしいことや期待することは何ですか

(複数回答可)

「1:支援者研修」…38件、「2:発達障害に関するネットワーク構築」…32件、「3:本人のトレーニングメニュー」…26件、「4:本人の仲間づくりや居場所」…39件、「5:支援の連携」…45件、「6:発達障害に関する巡回相談」…13件、「7:家族支援」…36件、「8:その他」…8件、「9:未回答」…4件



「5:支援の連携」が最も多く、次いで「4:本人の仲間づくりや居場所」、その次に「1:支援者研修」が多い。

センターの企画と支援ニーズはおおむね一致していたが、個別ケースに関する支援の連携への期待が、想定以上に多かった。

【8:その他】

- ・専門医への連携、相談、紹介
- ・低学年のうけ入れ
- ・心理テスト
- ・関係機関との調整
- ・本人が困った時に相談できる場所
- ・児童から青年期への移行時期のタイミングでの相談等

【自由記述】

- ・コミュニケーションのスキルを身につける様なプログラムの紹介をお願いしたい。
- ・大人の発達障がい、自分の生きづらさや苦しさをいつもかかえている人は多い。アディクションのミーティングのようにいくかわからないが、同じ障がいをもっている大人の人達の集えるサークルと

か板橋にあったらいいなと思う。高田馬場のネッコカフェ (Necco) みたいな。

- ・研修では、医学的な面（被害的な受け止めなど統合失調症との区別難しいと感じている）、支援のヒント、活用できる制度など学びたい。
- ・個別支援には限界あり、集団での支援が苦手な方のサポートに期待する。
- ・特に家族への支援をして頂きたい。
- ・幼稚園、小学生から続く連続した支援体制を是非構築して頂きたい。早期発見、対処が可能であれば、二次的な精神疾患の発病や自殺予防にもつながると考える。
- ・支援方法に行きづまりを感じているので対応方法について。
- ・支援者側（家族も含めて）の理解がまず大事だと思うが、スタッフ間で障害ではなく性格としてとらえてしまうこともあり、良い支援に結びつかないことがあるため、理解が得られるような研修等をやって頂けるとありがたい。
- ・卒業後、悩んだときに相談できたり、職場の人間関係等のぐちを言えるような場が必要だと感じている。
- ・利用者さんのみでなくキーパーソンや同居家族が発達障害疑いの場合があり、支援に苦勞することもある。
- ・知的障害と発達障害との違いは明確に分けられるものではないので親や本人が相談出来る場所が増えると良い。
- ・統合失調症などの診断を受けている方でも発達障害の特性が見えかくれしている方が非常に多くいると感じている。
- ・生活面での困難さを感じる方も多いため、相談先の一つとして支援ネットワークに参画していただければ、ありがたい。

7 事業開始から建物開設までの 取り組み

1 これまでの取り組み

2020年4月のセンター事業開始から11月4日建物開設までの期間は、下記の事業に取り組みました。新型コロナウイルス対策を講じて当初の事業計画を縮小した形でのスタートとなりました。

2 各事業の実績

(1) プレ相談会

対象	IJの会会員及び区内支援機関
実施期間	2020年7月～10月
実施回数	延べ51回(実人数37名)
内容と結果	6月開始予定だった区民相談が新型コロナウイルス感染症拡大により延期となった為、対象を限定して行った。 板橋区における発達障がいのある方に対する相談の現状を知り、対応のあり方について学ぶことができた。

(2) プレ家族学習会

対象	IJの会会員
実施期間	2020年8月～10月(計3回)
参加人数	延べ42人(①10人②10人③22人)
テーマ	①②精神科医療との付き合い方について(講師:精神科医 石山淳一氏) ③センターの施設見学・事業説明及び情報交換
内容と結果	12月開始予定の家族学習会定期実施に向け、対象を限定し3回実施した。情報交換の時間やアンケートを通じて、ご家族の多様なニーズを知ることができたため、今後の企画に反映する。

(3) 社会参加訓練(選択制プログラム) 試行実施

対象	プレ相談対象者
実施期間	2020年9月
参加人数	3人
内容	プログラムの内、理学療法士(PT)による「身体楽々パーソナルトレーニング」を試行実施
内容と結果	他に例のない大人の発達障がいのある方への個別機能訓練プログラムを試行実施した。相談では把握しづらい本人の具体的なニーズを知ることができたため、11月からのプログラム実施に反映する。

(4) 普及啓発

① 支援者向け研修動画の配信

対象	区内支援機関等
実施期間	2020年10月広報開始 (YouTube 配信期間 2020/11/17~2021/1/16)
タイトル	「発達障害児・者の理解と支援-ASDを中心として-」
講師	新井豊吉氏(福井大学大学院教育学研究科 准教授)
内容と結果	自閉症の理解を広げるために、講演動画を配信。チラシ発送及びホームページ等で周知をし、保育園や若者支援の事業所から、成人の保健医療福祉機関や就労支援事業所まで幅広くお申し込みをいただいた。

② 支援機関訪問

対象	区内支援機関等
実施期間	2020年8月~10月
事業所数	延べ46か所(1施設で複数事業実施している場合は事業数)
内容と結果	本実態調査に協力いただいた支援機関の回答を参考に、福祉事業所、医療機関、相談支援事業所、公的機関等を訪問しヒアリングを実施。各機関の支援の現状を教えていただくことができた。医療機関については受診紹介、心理検査の結果共有の依頼をおこなった。今後の支援における連携のあり方や、講演会・支援者研修・家族学習会等のテーマ設定に反映する。

③ 広報ソールの作成・発信

対象	区民及び区内支援機関等
実施期間	2020年4月~10月
内容と結果	区民及び支援機関にセンターの役割を広く周知し、利用及び連携につなげるための情報発信をした。 <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット(暫定版)の配布(約630か所) ・ホームページの開設及び情報発信 ・リーフレット(改訂版)の配布(約630か所) ・広報誌「あいポートだより」第1号の発行(約630か所)

(5) 大人の発達障がいに関する実態調査の実施

下記のスケジュールで調査・検討を重ね、本報告書作成に至った。(日程は2020年)

日程	内容	目的等
4/1	板橋区発達障がい者支援センター 事業開始	
6/10	第1回実態調査部会(運営委員会)	調査概要及びスケジュールについて 質問票の内容について
6/15	本人・家族用調査票配布開始	IJの会会員72名に依頼

7/22	支援機関用調査票配布開始	板橋区内支援機関 220 カ所へ依頼
7/31	第2回実態調査部会(運営委員会)	本人家族向け調査の集計結果について 支援機関向け調査の実施状況について
9/8	内山登紀夫先生スーパーバイズ (大正大学心理社会学部臨床心理学科 教授/よこはま発達クリニック 院長)	本人・家族向け調査結果に対するアドバイス 支援機関向け調査結果に対するアドバイス センターに求められる役割について
9/18	第1回全体会(運営委員会)	支援機関向け実態調査の分析について 実態調査報告書の発行にむけて 建物開設と今後の事業予定について
11/4	板橋区発達障がい者支援センター 建物開設	

(6) 関係機関・地域との連携

板橋区発達障がい者支援センター運営委員会の実施

目的	センターの開かれた運営と新たな検討課題に取り組むため、事業運営についての協議及び意見交換を行うことを目的に設置。
実施回数	全体会1回 作業部会2回 詳細は上記(5)参照
運営委員	8名

板橋区発達障がい者支援センター運営委員名簿

氏名	所属等	備考
結城 俊哉	立教大学コミュニティ福祉学部教授	委員長
鈴木 正子	板橋区発達障害児者親の会(IJの会)代表	副委員長
白石 敏枝	板橋区発達障害児者親の会(IJの会)副代表	副委員長
長瀬 美香	板橋区子ども発達支援センター センター長	
米山 明	全国心身障害児福祉財団 理事・全国療育相談センター 副所長 板橋区子ども発達支援センター 顧問医師	
今井 忠	NPO 法人東京都自閉症協会 理事長	
清水 恭子	地域活動支援センタースペースピア センター長 (社会福祉法人 JHC 板橋会)	
石野 哲朗	練馬区立光が丘障害者地域生活支援センター すてっぷ施設長	

8 調査結果の反映 (支援方針)

Ⅰ 本人・家族調査結果の反映

(1) どのような支援が必要とされているか

「現在お困りのこと」は、(日常生活に関すること)・(対人関係)、「センターに期待すること」は、(将来に役立つプログラム)・(生活全般の継続的な相談)が上位でした。自由記述は主に家族からの意見ですが、親亡き後の生活管理や自立についての不安と、発達障がいへの誤解が本人を傷つけていることへの不安の声が多くありました。

(2) どのような支援を提供するか

①相談支援(生活全般の継続的な相談)

生活全般について、その時々で必要に応じて、面接・同行・訪問によりおつきあいし、利用期限はありません。人生の変化に寄り添い、大変な時には頻度を高く、安定しているときは必要なことだけお手伝いします。

自分のことを知り、助けを借りる力、自分で決めて実行する力がつくように支援します。人生のチャレンジにおいて、失敗することや傷つくことがあっても、ここでは守られていると感じてもらえるように支援します。

担当職員が、一人ひとりと時間をかけておつきあいしながら、相互理解とパートナーシップをつくれます。

②社会参加訓練(将来に役立つプログラム)

まずは行きたいと思ってもらえる場所であるように努力します。そして今の居心地の良さや楽しさが、自信をつけることや将来の役に立つように、職員は先を見通して支援します。

③家族支援(情報交換会)

センターに期待すること3位が(情報交換会や講演会)であり、プレ事業の家族学習会も好評でした。学びと情報交換の機会として家族学習会を実施し、相談事業や医学相談においても、家族の相談をお受けします。

④普及啓発(発達障がいの正しい理解)

発達障がいに関する正しい理解と的確な支援方法が広がるように、専門家や当事者を講師とする講演会や支援者研修を開催します。板橋区発達障害児者親の会(IJの会)と連携します。

2 支援機関調査結果の反映

(1) どのような支援が必要とされているか

「本人の困りごと」は(不安やイライラなど気持ちに関すること)・(対人関係)、「支援者が感じる本人の課題」は、(こだわりがある)・(感情のコントロールが苦手)、「支援で難しさを感じること」は(本人との関わり方)・(他の利用者との関係)・(適した作業や環境)、「支援で工夫、配慮している点」は(具体的・明確な言葉かけ)・(情報提供の仕方)・(視覚的な配慮)が上位でした。

「センターに期待すること」は、(支援の連携)・(本人の仲間づくりや居場所)・(支援者研修)・(家族支援)・(ネットワーク構築)が上位でした。

自由記述では、こだわり、感覚過敏、精神的な不調への対応、自己理解や自己管理を支援することの難しさについて多くの声がありました。精神障がいや知的障がい、障がいがない人を対象とする施設の中で、発達障がいの特性への配慮や他の利用者との関係性について、どのように支援をすればよいか、支援者がとまどっている現状がよくわかりました。

(2) どのような支援を提供するか

①相談支援(支援の連携)

健康福祉センターとは、埋もれていたニーズの掘り起こしについて情報共有し、役割分担しながら個別の支援を連携します。

相談支援事業所、就労支援センターなどの相談機関、就労継続支援B型や就労移行支援、学校などの通所先とは、サービスを併用する利用者について情報共有し、主に生活面で連携します。

②社会参加訓練(本人の仲間づくりや居場所)

土曜日のプログラムを充実させ、平日の通所先・就労先と併用して、仲間との交流や安心できる居場所となるように支援します。ひきこもりの期間が長い方や集団が苦手な方でも、利用できるように配慮します。

③家族支援(相談と情報提供)

センターに期待すること3位が家族支援でした。本人だけではなく、家族を支えることも大事な役割であるため、ご本人がセンターを利用しない場合も、家族相談の枠で、面接や医学相談をご利用いただけます。またご家族の理解が深まるように、参加しやすさに配慮して講演会を開催します。

④普及啓発(発達障がいの正しい理解と的確な支援)

●支援者研修

発達障がいの特性理解や支援方法の工夫について、専門職や当事者を講師として、講義や事例検討会などの研修を、支援者同士が情報交換・交流できるように開催します。

●ネットワーク構築

「発達障がい者支援に関する連絡会」を区と共に開催し、板橋区における大人の発達障がい者支援の課題検討を行います。

支援者研修が、支援者同士のネットワーク構築に役立つように、グループワークや連続講座

として開催します。

●訪問スーパーバイズ

アンケートの回答で、巡回相談のご希望は13か所でした。専門家が施設を訪問して、発達障がいに関する個別支援や環境整備についてアドバイスします。令和3年度は、支援者研修の1つとして試行します。

●講演会

本人、家族、支援者、関心のある区民が気軽に参加できるように、アクセスの良い場所で、発達障がいに関する講演会を定期的を開催します。コロナ感染に配慮して、対面だけでなく、動画配信を取り入れます。

9 関係者コメント

1 板橋区発達障がい者支援センター運営委員からのコメント

運営委員長 結城 俊哉（立教大学 コミュニティ福祉学部 教授）

2020年11月に開設された「発達障がい者支援センター」（以下、「支援センター」）の準備に向けて実施された「実態調査」の結果を受けて「支援センター」の「調査結果の反映と今後の支援方針」について述べてみたい。

「発達障がい」の特徴は、「対人関係形成の困難（社会性の障害）」・「感情コントロールの不安定感」・「興味関心の限局性（こだわりの偏奇さ）」・「想像力（イマジネーション）の障害」等々の多彩で個性的な特徴があります。そこに「発達障がい者」の「生きづらさ」の源泉があり、その「生きづらさ」は、「社会文化的な環境要因」に強く影響されていることが解ってきています。その意味で支援方法には、「生活の環境調整（構造化）」が必要だとされています。

今回の実態調査においても「家族の困り事」と支援者の「支援の困難さ」は対になっており、表現のニュアンスの違いがあるものの、現状の支援課題としては、1)「日常生活（掃除・金銭管理）のこと」、2)「対人関係（本人及び他者との関わり）のこと」、3)「適した作業（活動・仕事）や環境に関すること」が上位に位置することが確認できた。そして、「支援センター」に期待される役割として、家族からは「継続的な生活相談」・「将来に役立つプログラムの提供」・「情報交換や講演会」であり、支援機関からは、「支援連携」・「仲間作り・居場所」・「支援者研修」・「家族支援」が期待されていることが読み取れた。さらに、今回の実態調査の自由記述欄に書かれていることの多くは、限られた選択肢だけでは到底描き出すことができない家族の「不安・悩み・思い・願い・希望」が、「支援機関」からは「支援機関同士の連携や研修の必要性・家族支援」に対する強い期待が寄せられていた。

最後に、コロナ禍による「ソーシャルディスタンス」が必要とされる今現在、福祉支援の基盤となる人と人が「交わる」こと、「つながる」ことがままならないからこそ、「支援センター」の果たすべき「必要不可欠な仕事（エッセンシャル・ワーク）」として「新たに挑戦すべきエッセンシャルな課題・役割とは何か」が問い返されている。その答えは、きっと、これから始まる「臨床的支援実践」の中にあることだけは確かなのだと思う。

運営副委員長 鈴木 正子（板橋区発達障害児者親の会（IJ）の会）代表）

「発達障害者への支援の輪」

このたび、これまで全く把握されていなかった板橋区の大人の発達障害者の実態調査が行われました。支援機関を対象とした調査では、発達障害者の人数はサービスにつながっている人だけでも少なくとも約800人いることがわかり驚きました。

支援機関の調査の2つの項目、問8と問9の回答をセットで読んで、希望を感じました。

問8「支援で難しさを感じることは何ですか」

問9「支援で工夫している点・配慮している点は何ですか」

支援では難しさがありながらも、必要な配慮を模索し、工夫をされています。このことは親の場合も同

じなので共感できました。

それぞれ状況が違うので、親や支援者一人ひとりの工夫が他に当てはまるということはないのですが、それでも、発達障害の特性を知り、当事者の声を聴くことがそのヒントになると思います。

自閉スペクトラム症(ASD)当事者の片岡聡さんには、「大人の発達障害を考える会」の勉強会で、複数回講演していただきました。いちど、「支援という静かな虐待」という題で支援者たちに気づいて欲しいことを述べられたことがあり、たいへん参考になりました。ドキッとするような題に反して、内容はいたって穏やかなものでした。私なりの理解では、以下が片岡さんのポイントでした。

- ・感覚刺激への過敏さ(音、匂い、光)に配慮してほしい
- ・言葉で表現されてはいないが、「本人の深刻さ」に気づいてほしい
- ・必ず集団に合わせなければならないと思わないでほしい
- ・先の見通しがつく、ストレスがないような配慮をしてほしい

さて、調査に戻りますが、板橋区では「あいポート」を中心として、支援の輪が広がり、人と人につながって支え合い、住みよい地域になればと思います。その旗振り役として区の担当部署があり、その指導によってモデル的な地域になることを願っています。

支援の輪によって、発達障害でひきこもった人が、一人の人間として自分らしく生きていけるように、仲間ができ、社会に居場所ができることを心から応援したいと思います。

運営副委員長 白石 敏枝(板橋区発達障害児者親の会(IJの会)副代表)

東京の城北に位置する人口57万の板橋区に「発達障がい者支援センター」(以後センターと表記)が誕生しました。発達障害という障害名は、メディアでよく話題にはなるのですが、まだまだ認知度が低く、多くの方は「聞いたことあるけどよくわからない」というレベルではないでしょうか。今回センターによって発達障害に関する二つの実態調査(①本人・家族対象②支援機関対象)が行われました。これらにより板橋区在住の大人の発達障がい者、家族および支援者、三者三様の困りごとの傾向をつかむことができました。さらに自由記述に見られるように、まだまだ支援が充実していない点や支援者が発達障がい者への対応に苦慮している様子もうかがい知ることができました。

しかし、実態調査の対象にならなかった、どこにも結び付いていない発達障がい者も板橋区にはたくさんいるはず。生きづらさが発達障害からきていると認識していない彼らは、本当に困って、どうしようもなくなって初めて表に現れ、助けを求めてきます。引きこもりと言われている人、ゴミ屋敷の住人、ネットカフェで寝泊まりしている人などの中に多く見られます。助けを求める先は身近な福祉課、健康福祉センターなどでしょう。介護支援機関によって発見される場合もあります。老いた親の支援のため訪問した際、引きこもっている子供の存在が確認されるケースも多々あります。

センターの役割としては、

- ① 支援がつながっているとはいえ、発達障がい者本人、家族および支援者の直面する困り事に適宜向き合い、一緒に考え解決策を探ること。但しセンター職員4人の態勢で、これらすべてに応えることはできません。支援者の研修・育成に努め板橋区全体の支援者能力の底上げを図ることが重要です。
- ② 支援を受けてはいないが困っているという人たちに必要な支援を提供することだと思います。そ

のためには彼らが真っ先に連絡をとる福祉課や健康福祉センターと色濃く連携をとり、協力しながらの支援体制が必要となります。また彼らの存在を最初に知りえる介護関係事業所や民生委員などとも風通しのよい関係を構築しなければなりません。

発達障がい者支援センターがうまく機能できるかどうかは、いかに関係各所と連携できるか、いかに支援者の力量を上げていけるかにかかっています。センター長が目標としている、いかに応援団を増やしていけるかも重要なポイントです。センターのご活躍を心から期待しています。

運営委員 長瀬 美香

(板橋区子ども発達支援センター センター長／心身障害児総合医療療育センター小児精神科)

この度、板橋区の実態調査が行われたことは、今後の板橋区の支援をすすめていくにあたり、大変意義深いものである。

支援機関アンケートでは、発達障害者の受け入れをしていないとの回答が 24/78 件(※)。施設への支援を充実することで、今後、受け皿が広がっていくことを期待する。

本人・家族用アンケートでは、当事者年齢は 20 歳代以下が 98%と若く、回答者は家族が85%であった。家族支援の視点も重要だが、加えて、今後、発達障がい者支援センターの相談を通して当事者の意見も集めていけることが望まれる。

当事者(家族)が考える当事者の困りごとは、「不安やイライラなどの気分」、「日常生活」、「対人関係」、支援者側が考える困りごとは、「不安やイライラなどの気分」、「対人関係」が最も多かった。環境調整とともに、必要時にスムーズに医療につながり、薬物治療も含めた専門的な治療を受けられる体制が望まれる。また、当事者が対人スキルを学べる場の提供とともに、安心して参加できる小集団の場など、発達障がい者支援センターでの支援が期待される。また、地域全体が発達障害者との関わり方を理解し対応できるように、地域への啓蒙の機会を充実することが必要である。当事者や家族だけが頑張れば良いのではなく、社会がどうするべきかという視点で捉えられるようになることが望まれる。発達障害の理解と発達障害者が生きやすい社会の醸成に向けて、学校などでの小児期からの教育の役割も期待される。

発達障がい者支援センターが中心となって、当事者同士、当事者と支援機関、福祉と医療機関など立場を超えた多様な連携の場を作っていき、情報交換から現状をふまえた具体的な有効な支援を提供していただきたい。

子ども発達支援センターに所属する立場からは、大人の発達障害者支援のニーズを踏まえ、子どもの時期に必要なこと、子ども世代に関わる支援者が行うべきこと検討し、子どもの支援体制を作っていくことを目指したい。

(※「6章支援機関編」では、調査依頼をした 220 施設の内 68 施設から回答を受理。「2 調査結果 問1」において重複回答可とし、78件の有効回答がありました。)

— 自分たちが住む身近な地域で縦横連携のある切れ目のない支援を—

【利用者の年齢層】

今回アンケート調査、問1、2の結果において、回答者の年齢層は 20 代:60%、10 代:27%、30 代:13%であり、幼児期～小中学校の子どもらが、「発達障害」と診断されるようになって 15 年経過した状況を反映している。「発達障害者支援法」以前は、発達の遅れ(知的障がい)を伴った発達障がい(例:知的障がいと自閉症(旧定義)並存)などは診断されていたが、知的障がいのない「発達障がい」児者は診断されることが少なかったことを物語っている。今後未診断の 30 代以上の方々の相談も増えることが予想され、そのニーズに合わせて、医療機関や保健、就労・福祉など連携が求められる。

【医療機関との連携】

発達障がい者が利用できる、医療機関は、板橋区医師会を中心として、大学病院、精神科病院、精神科・心療内科クリニック等と小児科領域の関係機関が、「成人期医療への移行」についての話し合い・研修会がされている。「あいポート」がコーディネートの役割を担っていただけると支援の幅が広がり、重層的な芯ができる可能性があり期待したい。

【発達障害者支援センターに期待すること】

調査から、支援センターへの期待は、生活全般の継続的相談のほか、自分の社会性(対人関係)スキルアップやストレスへの対応のほか、役立つ情報提供の発信などの期待、などの広範囲のニーズが寄せられた。個別の相談や支援のほか、広く教育、就労や福祉・保健・医療などが連携し、発達障がい者にとって(障害者虐待を含む)差別や偏見などの「社会的障壁」を取り除いた合理的配慮の提供が期待されており、自分たちが住む身近な地域で縦横連携のある切れ目のない支援提供をお願いしたい。

※板橋区子ども発達支援センターについて

板橋区では「発達障害者支援法」施行前 平成 15 年より板橋区保健所・健康福祉センターが立ち上げた「乳幼児の発達の遅れに関する相談・支援機関連絡会(略称:発達ネット(現在も継続中))を通じて、主に板橋区保健所、板橋区生きがい部健康推進課と心身障害児総合医療療育センターの小児科・小児精神科医らが中心となって検討を重ね、(平成 20 年度障害者保健福祉推進事業の調査研究結果も踏まえ)平成23年7月20日に「板橋区子ども発達支援センター」は(社福)日本肢体不自由協会が板橋区の委託を受けて事業を開始したもの。相談対象は、板橋区内在住の乳幼児から概ね 15 歳までの子どもを対象とし、発達障がいに関する専門相談機関として、早期からの支援を行っている。要綱には、発達障害者支援法 第1条の理念に准じ、乳幼児及び児童の発達障がいに特化した専門相談窓口を開設することにより、本人及び保護者に対する発達障がいの早期発見、早期支援体制の充実を図ることを目的とし、より身近な相談ができる「社会モデル(生活モデル)」を意識して個別相談から、親支援、支援者研修など実施している。発達障がい児は、児童虐待ハイリスクであることより、児童虐待予防と防止を意識して、要保護児童対策地域協議会(要対協)を開催できる機能を備えている。

運営委員 今井 忠（NPO 法人東京都自閉症協会 理事長）

「当事者や家族に寄り添って」

板橋区に発達障害者のための支援センターが出来たことを心から喜んでいますが、ここに至るまで、粘り強く活動されてきた親御さんや IJ の会のみなさんの大きな成果かと思えます。また、区議のみなさま、区職員のみなさまのご尽力の賜物と深く感謝いたします。

事前の本人や親御さん、支援機関のアンケートを読みました。そこには発達障害者の様々な悩みや生きていく上での困難さが書かれていて、この支援センターの設立が待たれていたことがよく分かりました。

オーストリアの精神科医ハンス・アスペルガーが今で言うアスペルガー症候群を同定したのが 76 年前であり、日本で発達障害者支援法が施行されて 15 年経ちました。NHK も特集を組んだり、マスコミの理解も大幅に進みました。しかし、世間一般の現状は、障害名は知っているが、一緒に暮らしたり仕事をするのはなかなかうまくいかないという事ではないかと思えます。先ほどのアンケートにもそのことが反映されています。常識的な善意だけでは乗り越えられない、ある種の難しさがあるのだと思えます。でも、常識や規範にとらわれず、素直に付き合えば分かりあえます。互いに心地良い距離が見つけれられます。そして、発達障害者のことが分ることは、人間の様々なタイプの理解にもつながると考えています。この支援センターが区民みんなの幸せにつながることを祈っています。

運営委員 清水 恭子

（社会福祉法人 JHC 板橋会 地域活動支援センタースペースピア センター長）

板橋区発達障がい者支援センターの設立にあたり、本人・家族、支援機関への実態調査が行なわれました。本人・家族の回答からは、福祉サービスや相談等の利用をしていない人が多く、自由記述には、何らかのサービスや相談の利用経験があっても、本人に合う支援が少なく継続しなかったことが挙げられています。支援機関の回答からは、受け入れをしている機関が多く、一人ひとりの特性に合わせ手探りで支援を続けていることが伝わります。また、本人・家族の困りごとと、支援者が想定する本人の困りごととして共通するのは、「対人関係」や「不安やイライラなどの気分」がありました。

こうした結果から、発達障がい者支援センターに期待される役割は、板橋区内で発達障がい者支援の専門機関として本人・家族が安心して相談し利用できることと考えます。発達障がい者支援センターの相談やプログラム等により、本人が利用できるサービスが増え、選択肢が増えることは、本人が希望する生活の実現に近づくと感じます。

加えて、発達障がい者支援センターが本人・家族と支援機関をつなぐ役割も大きいと思えます。そして、支援機関からは、サービスの提供方法や関わりについて、発達障がい者支援センターに相談し連携を取りたいと望まれています。これからは、発達障がい者支援センターと既存の支援機関それぞれの得意な部分を活かした支援が生まれることを期待しております。

運営委員 石野 哲朗(練馬区立光が丘障害者地域生活支援センター すてっぷ 施設長)

発達障がいの方の支援においては、様々な「見えない」が課題と感じています。障がい当事者にとっては、自身の障がい「見えない」。社会との関りにおいて発現する障害ですから、個々の特性や置かれた環境により、障害のあり方が全く異なります。障害を認知することすら難しい方も多いのではないかと思います。

ご家族においては、社会人としての本人の参加障害(問題)は見えても、その問題を生んでいる社会の側の不適切な仕組みが「見えない」。本人を通じてしか、本人が関わっている、感じている社会を知ることはできません。本人から説明することは難しいのですから(説明できるくらいなら、解決できているでしょう)、障害を生みだしている社会の仕組みを把握できないのです。往々にして、本人の特性が問題(障害)と認識してしまいがちです。

支援者においては、自分の関係する分野(社会)から見える障害は認知できますが、他の分野からどのように見えているのか、また本人がどのように感じているのかは「見えない」のです。発達障がいは、関係性の障害です。何が問題で、問題解決のために、本人がどのように社会と関わっていけばよいのかを考えるためには、発達障がい者個人の、生活の全体像を把握することが必要ですが、情報を共有し、本人を中心に広く支援連携を築ける環境は整っていません。

地域社会においては、まだまだ人の多様性の理解が進んでおらず、発達障がいの方の参加に関わる障害は見えますが、なぜ特定の個人の参加において障害が生じるのかは「見えない」のです。人は自分が所属している社会のあり方を基準に、物事をとらえます。その社会に不適応を起こす人の多様性を理解し、社会の受容する力の不備が見えるようにはなっていません。

板橋区発達障がい者支援センターの設置により、今回の実態調査を手始めに、発達障がい者を見る(知る)取り組みが続くものと思います。関係性の障害である発達障がいを知ることは、生きにくさを生む社会の不備を知ることにつながるのではないかと思います。発達障がい者の視点から社会の不備を改善していくことで、誰もが豊かに生きられるようなインクルーシブな社会が実現することを願っています。

2 事業協力者からのコメント

板橋区発達障がい者支援センター スーパーバイザー 内山 登紀夫

(大正大学臨床心理学科教授/よこはま発達クリニック院長)

実態調査の結果を読みつつ、何度かため息をもらした。家族への調査結果は日頃の臨床で家族から聞かれることと大きく異なることはなかった。強いて言えば、本人の回答が少ないことが残念であった。家族と本人のニーズは共通する部分も多いが、もちろん異なる部分もある。いずれ、家族と本人は別々に調査をすることが必要になるだろう。

一方、支援機関への調査結果は、様々な思いがよぎり読んでいて息苦しさを感じた。板橋区内で支援を受けている「おとなの発達障害」の当事者は疑いも含めて約 800 人である。57 万人の人口のうちの0.15%に過ぎない。何の支援も受けていない当事者の人はどれだけいるのだろうか？ 自閉症スペクトラム障害だけで人口の 2%程度存在することを考えると、人しれず生きづらさを抱え

て孤軍奮闘している人が多いだろう。

「支援者が感じる本人の課題」については、「こだわりがある」がトップで、次が「感情のコントロールが苦手」「コミュニケーションがとりにくい」、「他の利用者と協調できない」であった。「感情のコントロールが苦手」以外の3点は正にウイング先生があげた自閉症の「三つ組」である。自由記述欄には「気持ちをうまく表現できない」、「障害の受容が出てきていない」というのもあった。

こだわりがあったり、コミュニケーションがとりにくいのは正にそれが自閉症の特性であり、その点から生じる、日常生活の不利益をどのように支援をするのかが支援者の専門性である。「こだわり」も「コミュニケーションのとりにくさ」も、そのこと自体は自閉症の人にとっては自然なことである。センターに期待することについても「本人のトレーニングメニュー」とあげた人も少なくなかった。大人になって、何をトレーニングするのだろうか。トレーニングの意味するところは多様であるが「トレーニング」という言葉そのものが使いようによっては本人のニーズを無視した「静かな虐待」(ASD 当事者・片岡聡氏の言葉)につながるリスクは常に支援者として意識したい。

大人の発達障害の人に対して「障害受容」という用語も何度も出てきたことに驚いた。「障害受容」とは多くの場合、支援者が当事者や家族に対して否定的な文脈で使用される。「あの親は障害受容ができていない」と言ったように。しかし、障害受容ができていないと言いながら、「こだわり」や「対人関係」が課題というのは、矛盾である。「障害受容」という用語に幾ばくかのメリットがあるとすれば、「こだわり」などの特性は障害特性であり、「トレーニング」によって「克服」する対象ではないということを確認することだろう。本人や家族の「障害受容」よりも、「障害の理解」が支援者にとって優先順位の高い課題であろう。

板橋区発達障がい者支援センター 嘱託医 石山 淳一

(精神科医／江東区深川保健相談所・相談医／足立児童相談所・医員ほか)

大人の発達障がい者の支援に際しては、より一層個人の多彩な特性の明確な把握とそれに応じた適切な対応が求められます。

この度「板橋区発達障がい者支援センター」開所に際して、このような多方面に亘る綿密な調査が実施され、加えてそれぞれの分野のエキスパートによる分析、考察がなされていることに敬意を表します。

開所後は、発達障がい者本人・家族の多岐に亘る悩み・その苦しみに立ち向かう支援側の困難さとのいわば“苦しみと困難さとの戦い”とも言える状態がしばらくは続くはずですが、多少の時間経過が要求されようとも、地域の皆様のお力も得てお互いの苦しみの中に調和が生まれ、凹凸かみ合った素敵な関係が生まれ、育てられていくに違いありません。「あいポート」愛称がいいですね。素敵な旅立ち、仲間の場となるに違いありません。

3 スタッフコメント

センター長 小山 伸子

ご家族が自らの経験を率直に、具体的に自由記述に書いてくださり、子ども時代から長く続く、本人と家族の苦労の内実がよくわかりました。板橋区の家族会が長年積み上げてきた活動と信頼があってこそこの調査結果だと思います。今後は、ご本人との関係づくりを積み重ね、次の調査につなげたいと思います。これまで、知的障害者支援や精神障害者支援の中に埋もれていた、大人の発達障害者支援を特化して事業開設した板橋区の英断と家族会の熱意に改めて敬意を表します。今、相談は殺到し、ニーズの高さを日々実感しています。

副センター長 葛岡 敦

本格的な事業スタートを前に、本調査に対してこんなにもたくさんの方からご協力をいただいたことに感謝の気持ちで一杯です。当然報告書の完成が目的ではありません。いただいた回答やメッセージは、日々の支援や事業組み立ての中で、一つずつ具体的に実現していきたいと思います。

これから、本人・ご家族・関係機関のみなさまとつながりながら、板橋区の発達障がい者支援を豊かにしていけたら。中長期的な視点も持ちながら、毎日真摯に取り組むことを忘れないようにしたいと思います。

真摯にご回答いただいたみなさま、改めましてありがとうございました。

奥川 茂樹

新設のセンターであるにも関わらず、たくさんの方々がご意見をくださいました。大人の発達障がい者支援がまだまだこれからであるということと、センターに対する期待の大きさを感じています。

皆さんの声があることで、この調査が形になり、センターとして担うべきことが見えてきました。発達障がいのある方たちが生きやすい環境を、センターが独自に作っていくのではなく、当事者や支援者、関係する方々皆さんの声があってこそ作っていきけるのだなということを感じました。

皆さんと共に歩いていく姿勢を忘れずに取り組んでいきたいと思います。

この調査には、全く支援につながっていないような方の声は入っていません。そういう方々とつながっていきけるよう、一相談員として、少しずつ、広げていけたらと思います。

穴澤 彩名

板橋区内外の様々な方のご協力を得てこの報告書完成に至りましたこと、心よりお礼申し上げます。支援者の方からは支援の中での迷いを、そしてご本人・家族からはこれまで経験されてきた苦労や悩みをありのままに書いていただきました。これらは、日々感じていらっしゃるもののほんの一端に過ぎないかもしれませんが、知ることができたのは大きな学びです。寄せていただいた沢山の声を私たちが汲み上げ、これからの取り組みに反映させていくことの大切さを改めて実感しています。

これから関わるご本人の一人一人を深く理解していくこと、そして理解の輪を広げながらご本人を取り巻く家族、支援機関、社会とのネットワークを築くことを丁寧に行っていきたいと思います。

あいポートプログラム紹介⑤

板橋区発達障がい者支援センター (あいポート)開設記念講演

「おとなの発達障がい」(動画配信)

近年、対人関係やコミュニケーションで悩みを抱えたり、社会生活上で生きづらさを感じる方が増えています。高校や大学などの学校生活で、周囲とおりあいがつかず、ひきこもり状態になる。仕事が長続きせず転職を繰り返し、生活も不安定になる。家庭内で上手くいかず、行き詰まりを感じる。このような悩みを抱える方々の背景には、本人の努力だけではなく、発達障がいがある原因となっている場合も考えられます。

本講演では、わかりづらいつわられる大人の発達障がいについて、基本的なお話を踏まえ、子どもから大人へと年齢が上がっていく中で支援の視点など、幅広くお話しいたします。多くの方からのお申し込みをお待ちしております。

【配信期間】2020年12月15日(火)～2021年1月5日(火)
(動画時間 約60分)

【閲覧方法】板橋区公式 YouTube チャンネル
「チャンネルいたばし」で配信

2020年11月10日放送のNHK「クローズアップ現代+」にも
ご出演されました。(テーマ:なぜ今も多くの人が?気づかれない大人の障害)

講師：内山 登紀夫 先生

大正大学 心理社会学部臨床心理学科 教授
よこはま発達クリニック院長



1956年三重県に生まれる。順天堂大学医学部卒業。精神科医師。専門は児童精神医学。順天堂埼玉精神医学研究所付属病院、東京都立柳ヶ丘病院、大妻女子大学人間関係学部教授、福島大学人間文化発達学類教授を歴任。1994年、米国ノース・カロライナ大学 TEACCH 部にて研修。1997年～1998年英国自閉症協会付属の The Centre for Social Communication Disorders(現 Lorna Wing Centre)に留学。ローナ・ウィング博士、ジュディス・ゲールド博士に師事。DISCO、アスペルガー症候群の診断について学ぶ。板橋区発達障がい者支援センタースーパーバイザー。

申込先: f-chiiki@city.itabashi.tokyo.jp (板橋区障がいサービス課あて)

件名に「あいポート開設記念講演」、本文に「氏名」をご記載ください。

受付期間: 2020年11月24日(火)～12月11日(金)

動画は申込みをした方が閲覧できるものとし、第三者へ転送しないようお願いいたします。

お問い合わせ:

板橋区障がいサービス課 地域生活支援係 TEL:03-3579-2736 (月曜～金曜 9時～17時)

板橋区発達障がい者支援センターあいポート TEL:03-5964-5422 (火曜～土曜 10時～17時)



あいポート講演会

デジタルトランスフォーメーションと 3次元デジタルモデリングの新パラダイム

内容 デジタルトランスフォーメーションとは「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念 (Wikipediaより) です。すでに私たちの生活には、様々な IT 機器がなくてはならない存在となっています。Rhino (ライノセラ) を例に「ものづくり」におけるデジタル化と、3次元ツールの有効活用について講演します。(裏面に詳しい内容をご載せています)

※Rhino (ライノセラ) とは
自動車・家電・航空船舶・建築・教育機関で、意匠・設計・製造の工程において広く使用されている 3次元のデジタルモデリングツール。
(パソコンのソフトです。あいポートの利用者プログラムでも導入しています)

日時 2021年1月9日(土) 14:00～
14:00～ 講演会
14:45～ あいポート事業説明
15:00～ ライノセラ体験会

講師 中島 淳雄 氏
～講師プロフィール～
3D デジタルモデリングエキスパート、株式会社アプリソフト創設者・現取締役、株式会社アフォンデザインシステムズ代表取締役、武蔵野美術大学基礎デザイン学科非常勤講師、日本デザイン学会会員・日本建築学会会員

パソコンを使って体験します。
ライノセラ初心者向けです。

会場 板橋区向原 3-7-9 ココロネ板橋 1階

定員 25名 (ライノセラ体験 12名)

参加費 無料

申込み 12月19日(土)より受付
お電話でお申込みください
ライノセラ体験希望の方はお申込時にお伝えください

板橋区発達障がい者支援センターあいポート
03-5964-5422
火～土 10:00～17:00 (祝日及び12月29日～1月3日を除く)

資料集・建物写真

I 本人・家族用質問票

大人の発達障がいに関するニーズ調査(本人・家族)

板橋区発達障がい者支援センター

◎以下、問1～問11までご回答下さい。なお、設問における選択肢回答には、□にチェックをして下さい。

問1. ご回答いただく方(一つ選択)

ご本人 ご家族 その他()

問2. ご本人(発達障がいのある方)の年齢を教えてください。(一つ選択)

10代 20代 30代 40代 50代 60代以上 非回答

問3. ご本人(発達障がいのある方)の性別を教えてください。(一つ選択)

男性 女性 非回答

問4. 現在、福祉サービス等を利用していますか？

利用している→下段からチェックして下さい(複数回答可) 利用していない→問5へ

1:相談支援事業所(計画相談等) 2:就労継続支援B型

3:就労移行支援 4:自立訓練(生活訓練)

5:グループホーム 6:地域活動支援センター

7:訪問看護 8:訪問介護

9:その他()

問5. 現在、相談やカウンセリング等を利用又は登録していますか？

利用している→下段からチェックして下さい(複数回答可) 利用していない→問6へ

1:健康福祉センター 2:子ども発達支援センター

3:医療機関等のカウンセリング 4:福祉事務所

5:高校・大学等の相談室や教員 6:障がい者就労支援センターハート・ワーク

7:教育相談所 8:いたばし若者サポートステーション

9:こども家庭支援センター 10:その他()

問6. 現在、発達障がいについて医療機関を利用していますか？

利用している→下段からチェックして下さい(一つ選択) 利用していない→問9へ

1:区内クリニック 2:区外クリニック 3:区内病院 4:区外病院

5:その他()

問7. 医療機関の主な利用目的は何ですか。(複数回答可)

1:定期的に通院をしている 2:困ったことについて主治医に相談している

3:薬の処方のため 4:意見書など必要な時にお願いをしている

5:その他()

問8. 差支えがなければ通院先名称を教えてください。(自由記述)

※個人を特定することは致しません。未記入でも構いません。

問9. 問4~6以外に利用してよかったと思う支援があればお書きください。(自由記述)

問10. 現在お困りのことは何ですか。(複数回答可)

1:支援の利用に関する事 2:手続きに関する事

3:仕事に関する事 4:掃除やお金の管理など日常生活に関する事

5:体調に関する事 6:学校に関する事

7:特性に関する事 8:不安やイライラなど気持ちに関する事

9:対人関係に関する事 10:必要な情報に関する事

11:誰に何を相談していいかわからない 12:その他()

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

問11. 発達障がい者支援センターに期待することは何ですか。(複数回答可)

※発達障がい者支援センターの事業は他の福祉事業と合わせて利用することができ、訪問や同行など他施設の職員と連携することができます。どのような支援をしてほしい、こんな取り組みがあるといい、このような関わり方をしてほしいなどご記入おねがいします。

- 1:生活全般の継続的な相談
- 2:ストレスを和らげるプログラム
- 3:将来に役立つプログラム
- 4:対人関係のスキルを学べるプログラム
- 5:交流やリラックスのできるスペース
- 6:情報交換会や講演会
- 7:発達障がいに関する情報提供
- 8:その他()

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

以上です。

ご協力ありがとうございました。

板橋区発達障がい者支援センター

電話 03-5964-5422(電話受付時間:火曜~土曜 10:00~17:00)

住所 〒173-0036

東京都板橋区向原 3-7-8ケアホーム板橋内仮設事務室

2 支援機関用質問票

大人の発達障害に関する支援ニーズ調査（支援機関）

板橋区発達障がい者支援センター

【施設情報】今後の問合せ及びアンケート結果ご報告のため施設情報をご記入下さい。なお、調査結果については事業所名が特定されないよう匿名で集約いたします。

施設名称:	ご担当者様名:
電話:	メール:
施設種別:	

以下、問 1～問 11 までご回答下さい。尚、設問における選択肢回答には（□にチェック:複数選択回答可）です。

問 1. 貴施設における発達障がいのある方の受け入れ状況を教えてください。(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 1: 現在、受け入れをしている。
<input type="checkbox"/> 2: 現在対象者はいないが、今後受け入れていきたい。
<input type="checkbox"/> 3: 現在対象者はおらず、今後も受け入れる予定はない。
<input type="checkbox"/> 4: その他()

※正確な数が出せない場合はおよその人数で構いません。

問 2. 貴施設の利用者数(相談者を含む) 人

問 3. 問 2 の内、発達障がいのある方(診断確定)の人数 人

問 4. 問 2 の内、発達障がいの傾向があると思われる方(診断確定していない)の人数 人

問 5. 問 3 及び問 4 の方々の年代の状況について(複数選択)

問 3 の主な利用者層: <input type="checkbox"/> 10 代 <input type="checkbox"/> 20 代 <input type="checkbox"/> 30 代 <input type="checkbox"/> 40 代 <input type="checkbox"/> 50 代 <input type="checkbox"/> 60 代以上
問 4 の主な利用者層: <input type="checkbox"/> 10 代 <input type="checkbox"/> 20 代 <input type="checkbox"/> 30 代 <input type="checkbox"/> 40 代 <input type="checkbox"/> 50 代 <input type="checkbox"/> 60 代以上

問 6. 利用されている方の困りごと(支援ニーズ)で多い内容は何ですか。(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 1: 支援の利用に関すること	<input type="checkbox"/> 2: 手続きに関すること
<input type="checkbox"/> 3: 仕事に関すること	<input type="checkbox"/> 4: 掃除やお金の管理など日常生活に関すること
<input type="checkbox"/> 5: 体調に関すること	<input type="checkbox"/> 6: 学校に関すること

7:特性に関する事 8:不安やイライラなど気持ちに関する事

9:対人関係に関する事 10:必要な情報に関する事

11:その他()

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

問7. 貴施設スタッフが支援において感じるご本人の課題は何ですか。(複数回答可)

1:集団参加が難しい 2:他の利用者と協調できない

3:コミュニケーションがとりにくい 4:失敗が多い

5:こだわりがある 6:不器用である

7:感情のコントロールが苦手 8:その他()

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

問8. 支援で難しさを感じることは何ですか。(複数回答可)

1:本人との関わり方 2:他の利用者との関係

3:家族との関係 4:適した作業(活動・仕事)や環境

5:発達障害者支援に関する情報 6:その他()

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

問9. 支援で工夫している点・配慮している点は何ですか。(複数回答可)

1:施設環境の整備 2:情報提供の仕方

3:具体的(明確)な言葉かけ 4:視覚的な配慮

5:音への配慮 6:安心安全への配慮

7:その他()

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

問10. 発達障がい者支援センターに実施してほしいことや期待することは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1: 支援者研修 | <input type="checkbox"/> 2: 発達障害に関するネットワーク構築 |
| <input type="checkbox"/> 3: 本人のトレーニングメニュー | <input type="checkbox"/> 4: 本人の仲間づくりや居場所 |
| <input type="checkbox"/> 5: 支援の連携 | <input type="checkbox"/> 6: 発達障害に関する巡回相談 |
| <input type="checkbox"/> 7: 家族支援 | <input type="checkbox"/> 8: その他() |

※発達障がい者支援センターの事業は他の福祉事業と合わせて利用することができ、訪問や同行など他施設の職員と連携することができます。

また、具体的な内容があれば可能な範囲でお書きください。(自由記述)

問11. より詳しく支援状況をおうかがいするため、センタースタッフによるヒアリングにご協力いただけますか?(複数回答可)

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 1: センタースタッフが貴施設へ訪問することに対応可能 |
| <input type="checkbox"/> 2: 電話・メールによるヒアリングに対応可能 |
| <input type="checkbox"/> 3: 対応は難しい |
| <input type="checkbox"/> 4: その他() |

※訪問については、新型コロナウイルス感染状況を見て、個別に日程調整をさせていただきます。

以上です。

ご協力ありがとうございました。

板橋区発達障がい者支援センター

電話 03-5964-5422 (電話受付時間: 火曜～土曜 10:00～17:00)

メール hattatsu_itabashi@cocorone.space (関係機関用メールアドレス)

住所 〒173-0036

東京都板橋区向原 3-7-8 ケアホーム板橋内仮設事務室

3 調査協力依頼文書

関係機関 ご担当者各位

2020年7月

板橋区発達障がい者支援センター

質問票回答のご協力のお願い

この度、板橋区発達障がい者支援センターの事業を開始することとなりました。11月には建物も新規開設いたします。

このセンターの役割は、障害の受容や自己理解に苦勞している方、これからどうしたらよいかわからない方への専門的な支援、あるいは診断確定していないけれども、周囲になじめない、うまくいかなさを抱えながら大人になり、仕事や対人関係で苦勞している方およびご家族への支援です。埋もれているニーズを早期に発見して適切な支援につなげることができるよう、区内の医療、保健、福祉関係者の皆様と協働したいと考えております。

事業を開始するにあたり、質問票にて皆様のご意見をきかせていただき、今後の支援やセンター運営に役立てたいと考えております。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査にご協力いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

《ご回答していただくにあたって》

1. 返送方法

返信用封筒又はメール

2. ご回答期日(目安)

質問票の1ページ目をご確認ください

3. 当センターが相談対応する「大人の発達障がい」の方とは、16歳以上で診断確定している方及び診断はないが疑いのある方を含みます。

4. 支援の工夫や苦勞など、支援をされる中で日頃感じていることやご意見を可能な限り自由記述にご記載いただければ幸いです。今後の連携にいかしてまいります。

5. ご回答いただいた内容は、施設名等は掲載しない形でとりまとめ、後日報告書としてフィードバックいたします。

【問い合わせ先】

〒173-0036 東京都板橋区向原 3-7-8

板橋区発達障がい者支援センター仮設事務室

[Tel:03-5964-5422](tel:03-5964-5422) (電話受付時間:火曜～土曜 10時～17時)

4 利用の流れ

ご利用の流れ

板橋区発達障がい者支援センターあいポート

当センターの利用は予約制です。まずはお電話ください。

1 電話受付

03-5964-5422 受付:火曜~土曜日 10:00~17:00

ご相談内容・相談ご希望日時などを簡単にお聞きします。

2 相談日の設定

担当が決まり次第、当センターから初回相談の日時をご連絡します。

3 初回相談

来所いただき、ご相談の内容について詳しくお話を伺います。

どのような支援があればよいかを一緒に考えます。

ご希望を伺いながら利用方法を決定していきます。

4 継続支援

・継続相談

2回目以降の面接や、当センターの社会参加訓練・家族支援の利用など、必要な支援を継続していきます。

・その他

医療機関など、他の支援機関を紹介させていただく場合があります。

他機関と連携しながら支援を行う場合もあります。

▶ 相談

▶ 社会参加訓練

▶ 家族支援

5 プログラムカレンダー

12月のプログラム予定

月	火	水	木	金	土	日
休	1	2 グループワーク 10:00~11:30	3	4	5	6 休
		3Dデザイン自主勉強会 14:00~16:00			音楽の時間 14:00~15:00	
7 休	8	9 グループワーク 10:00~11:30	10 パソコン教室 10:00~11:30	11	12 からだ 身体楽々パーソナルトレーニング 10:00~、11:00~、12:00~	13 休
		3Dデザイン自主勉強会 14:00~16:00		ストレッチ呼吸法 13:30~14:30	家族学習会 14:00~16:00 3Dデザイン自主勉強会 14:00~16:00	
14 休	15	16 グループワーク 10:00~11:30	17	18	19 パソコン教室 10:00~11:30	20 休
		3Dデザイン自主勉強会 14:00~16:00		音楽の時間 13:30~14:30	土曜クラブ 14:00~16:00	
21 休	22	23 グループワーク 10:00~11:30	24 パソコン教室 10:00~11:30	25	26 からだ 身体楽々パーソナルトレーニング 10:00~、11:00~、12:00~	27 休
		3Dデザイン自主勉強会 14:00~16:00			SST 14:00~16:00 3Dデザイン自主勉強会 14:00~16:00	
28 休	29 休 (~1月4日)	30 休 (~1月4日)	31 休 (~1月4日)			

6 各フロアの写真

相談者エントランス



館内受付



相談室



社会参加訓練登録者の入口



社会参加訓練登録者の利用受付



個別支援室



休養室



交流室



外スペース

